

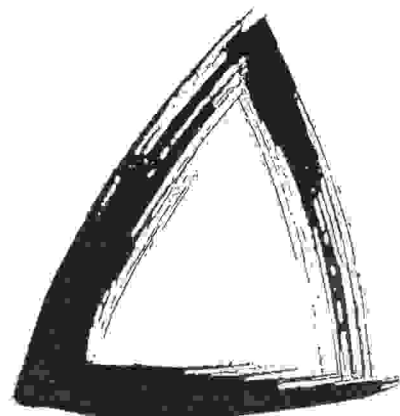
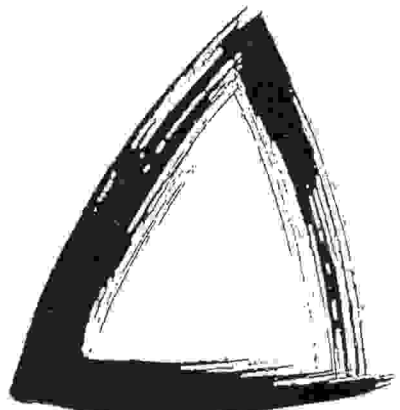
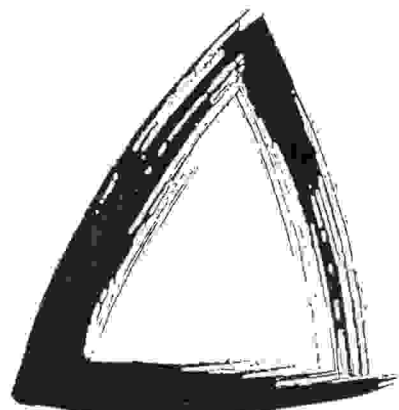
松島ジュニアヨットクラブ10周年記念

50周年記念

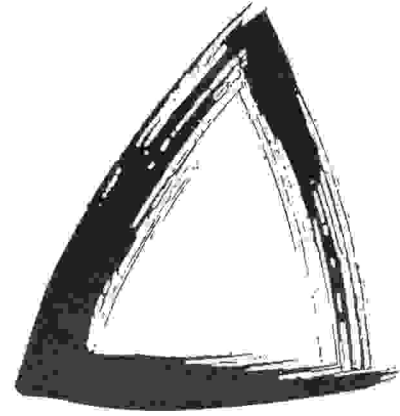
10年の航跡

1980年～1990年





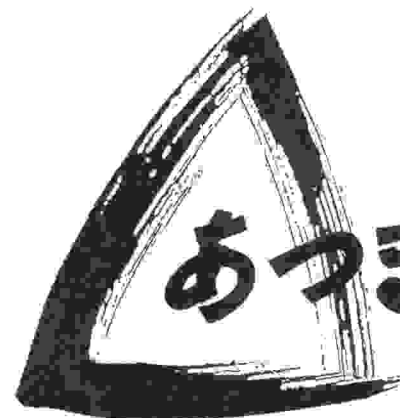
そのトンネルを抜けると、視界いっ
 ぱいに海が広がる。気の早い仲間
 達のセイルが、波に躍っているのが
 見える。まぶしい風景を渡る風。あと
 数分で、ぼくも、あの点景のひとつ
 になる。今日はあの島まで競おうか。
YAMAHA-14 SeaHopper II SR
 ——ここは自由な海への入口。



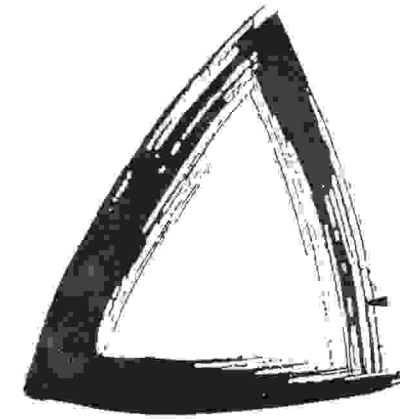
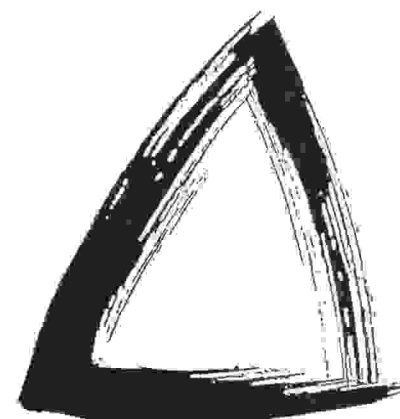
YAMAHA-14 SeaHopper II SR

●全長4.24m ●水線長4.05m ●全幅1.44m ●吃水(C-B up/down)
 0.10m(0.80m) ●総浮力量51kg ●定積容量84kg ●全セイル面積5.4㎡
 ●標準現金価格例:404,900円
 (安全備品、YSM会員登録費、オーナーヨット教室受講料を含む)
 ●消費税については、別途計算させていただきます。

祝 松島ジュニアヨットクラブ10周年



あつまれば、競います。



FOR GOOD MARINE LIFE! 安全がマリンスポーツの基本です。

■天気予報を確認して、無理のないセーリングを。■法規やマナーを守りましょう。■立入禁止水域や船舶航行の頻繁な水域は避けましょう。■点検・整備を忘れず。■乗船前に、免許と法定備品の確認を。■島々へは送迎をかけるようにしましょう。
 ●カタログご希望の方は、姓名・電話番号を明記のうえ、重伝票まで。●ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県静岡市新興2500

●セイルの製品についてのお問い合わせ
 ヤマハ発動機(株) 〒103 東京都中央区新富町5-10-16 (03) 2325-1031 ヤマハ 豊洲店 〒100-01 東京都豊洲区新富1-1-15 豊洲上ビル7F-55 (03) 77-29-6691
 ヤマハ 船橋店 〒126 千葉県船橋市中央2-1-1 (027) 2335-1031 ヤマハ 大船店 〒122 東京都大船町3-1-1 (03) 2335-1031



NIPPON CHALLENGE
 AMERICA'S CUP 1991

わたしたちはニッポンチャレンジ
 アメリカ杯1991を応援しています。

目 次

ごあいさつ	松島ジュニアヨットクラブマスター	吉田 茂	1
ご 祝 辞	日本OP協会 会 長	馬嶋 勉	2
	宮城県ヨット連盟理事長	高橋 順一	3
	浅虫ジュニアヨットクラブ	笹森 俊夫	4
写真で見る10年	マネージャー	金矢 泰弘	5～25
トピックス<新聞記事より>		香野紀久子	26～27
ジュニアクラブの年中行事		渡辺 哲雄	28～29
50帆100帆転載		佐藤 啓子	30～31
大会・行事参加感想文集			32～37
ヨットレース		谷本香菜子	32
あじ島がっしゅく		星 直人	33
あじ島に行ったこと		橘内 潤	34
MJYC初の海外遠征		香野 俊一	35
ビバヨット!<現役ジュニアメンバーより>		橘内 潔根	38～39
懐かしグッズ<あのTシャツ・あのバッグ>		香野紀久子	40～41
東北ジュニアヨット大会記録			42～44
10年間のメンバー・コーチ一覧			45～49
編 集 後 記		佐藤 啓子	50
御協賛者名簿			



10周年

記念事業によせて

松島ジュニアヨットクラブ

マスター 吉田 茂



私の書棚に東北ジュニアヨット大会のファイルがあります。毎年シーズンになると、ページをめくり乍ら、その年の大会の挨拶文を考えますが、プログラムを読んでいるうちに第1回大会からの思い出にひたって感慨無量になってしまいます。

10年前の私は病後でヨットのできる身体ではなかったのですが、宮城県ヨット連盟理事副会長の要職を与えられ、連盟の普及事業としてジュニアヨット活動を担当することになりました。

手さぐりで各方面に働きかけ……………、兎に角、松島ジュニアヨットクラブが誕生しましたが、活動が先行してしまっ、クラブの組織化が後手後手になって、子供達や親達に引きずられ、御覧の通りの“皆んなのクラブ”になりました。

アッと云う間の10年でした。何もしない、何もできないマスターですから、2、3年という気もするし、15年以上も経ってしまったような気がします。当時の子供達は成人して誰が誰だか見わけがつかませんが、親達の顔はみんな残っています。ジュニアヨットはいつの間にかヨットクラブになってしまった感じです。考え方によっては、すばらしいスタイルのクラブの形態のようです。

10年目の節目に立って、今後の進む方向を皆で模索し、考え合って後から続く吾が子達と共に新しい航跡（みお）を残す時かも知れません。

松島ジュニアヨット

クラブ10周年を祝う

日本オブディミストディンギー協会

会長 馬 嶋 勉



東京でオリンピックが行われたのはすでに27年前になります。その時ヨットレースは江の島沖で行なわれましたが、お世話した御礼に翌年デンマークロイヤルヨットクラブから江の島ヨットクラブに6艇の木造のすばらしいOPが贈られて来ました。これはデンマークの故カイオオハルド氏から故小沢吉太郎氏に贈られたと云うほうが正しいでしょう。当時江の島の理事長であり、日本のヨットの神様といわれた小沢先生（通称吉ちゃん）が江の島で初めてのジュニアクラブを創り、先生の熱心なチビッ子ヨット教室が始まったのがOPの始まりでありジュニアヨットクラブの始まりでした。6艇のOPが現在その数4千とも5千とも云われる程にふえ、OPのフリートは50ヶ所にも及び、各フリートはボランティア活動乍ら青少年育成に熱心に取り組んでいます。事業が目的をもって達成されるにはそれを導く人々の努力によって成しとげるより外になにもありません。日本は四面海に囲まれた海洋国でありながら臨海工業や沿岸漁業権等で海岸線は大人の生活の場として占有され、眼前の海もヨットを通じて健全な育成の場として顧みられることの少ない現状があります。松島ジュニアが10年と云う歴史を重ね立派な伝統を持たれた事に大きく深い喜びを感じます。長い歳月の中には大変な御苦労があった事と思います。風光明媚な松島の海で指導者に恵まれ、子供達と風土性の良さ、それをささえる父兄の理解の良さ、全てがこの歴史を作り上げたものと確信致します。かつて小生は1985年七ヶ浜で開催された東日本選手権に出席してその全てに感銘致しました。東北の海は特に厳しいものがありますが今迄一人としての事故もなく色々イベントを成功させ、各地のレースに参加されて来られた指導者に深く敬意を表わし感謝致します。OPは他の艇種とは違って子供でありそれが卒業して行くと云う事等、かえってやりがいがある仕事とも云えます。OPで育った・育てた子供達が将来どのような人生を送ってくれるかは大きな楽しみです。それはきっと数年間のOP教育を受けた事が必ずや人生の幸に通ずる事と信じます。日本のOP協会は昨年世界30ヶ国の参加によるワールドを横浜で大成功に終える事が出来ました。それも日本中

のOP愛好者の後援があり皆が協力して戴いたおかげと感謝致します。日本の選手達もやっと国別対抗のチームレースの予選を通過する様になり個人戦でも中位以上にのし上って来ました。これも日本OPが22年の伝統と11回ワールドに参加した歴史がものを云うのです。これからはアジアの国々も非常に熱心であり強くなって来ます。アジアではリーダーシップを取りたいものです。松島からはアセアン選手権へ出場した歴史もあり、これからは外国とのレースは盛んに行なわれるはずでしょう。益々指導者の皆様に頑張ってもらって、子供達もその期待にそって日本のフリートのリーダーシップを取る松島ジュニアになっていただきたいと希望し、最後に事故のない明るく楽しい松島ジュニアの10周年を祝い今後の益々の発展を祈ります。

松島ジュニア

Y・C 10周年によせて

宮城県ヨット連盟

理事長 高橋 順 一



10周年おめでとうございます。

七ヶ浜にOPが初めて浮んだのは、昭和53年であったと思います。日本ヨット協会の船舶事業の中で、各地区にOP艇を配布する事業の最初の頃であったと思います。

そのOPを基に自作艇をつくり、メンバーを増してどんどん大きく成長して来た松島ジュニアヨットクラブは、宮城県、更に東北の少年ヨット界の中心的な存在になりました。

昨今の国体あるいは各クラスの全日本の上位入賞者は、ほとんどがジュニアヨットの経験者で、小さい頃から海に親しみ、ヨットと共に成長して来た者たちであります。

こと宮城県におきましても、貴クラブのOB・OGの方々が国体に参加し活躍しているのを見て、近い将来、ほとんどの選手がジュニアで育成された選手によって県の代表チームを作るようになっていくのではなかろうかと感じているところであります。

小中学生は基より、吉田マスターを中心とした指導者、ご父兄の方々の強い結束力に常々好感を抱いているところでありますが、今後とも、安全で、たのしいヨットライフを永く続けられますようお祈りいたします。

松島ジュニアヨットクラブの10年の記念に当り、スターボーを送ります。

松島 J.Y.C 10周年に寄せて

浅虫JYC代表 笹 森 俊 夫

親愛なる松島Jrの皆さん、またヨットクラブを支えておられる指導者、父母、県連等関係者の皆さん、10周年、本当におめでとうございます。

皆さんと山形県連Jrとで企画した第1回東北Jrヨット加茂大会。今でも忘れられない印象深い数々の場面がまぶたに浮かびます。あそこから、今日のすべてが始まったのです。瓦屋根の加茂小、校庭にずらりと並んだ色とりどりのOPセイル、ゲタばきかっぱう着姿のおばあちゃん、万国旗、大漁旗に囲まれた開会式、小沢先生の深く心にしみるお話、笑顔一杯の花笠音頭、雨降りのゲーム、はだして竹馬に乗っていた加茂の子、漁港封鎖の巡視船、怖る怖る参加した青森の子5人、松島、浅虫で分け合ったOP2マンの2位……。

いつの間にか、もう10年。あれが皆さんとの初めての出会いでした。山形県連と松島Jrとの大きな夢にちょっと乗っかり、第1回大会の感動についつい続いてきた私達浅虫ジュニア。東北をリードしてこられた松島Jrが、いつも私達の目標でした。

OP選手権東日本ブロックの開催、全国大会での活躍など、目ざましい活動と強力なバックアップの体制に敬意を表し、東北、北日本Jrヨット運動の中核として、さらに発展されることを祈ります。

ともに手をたずさえ、海の子たちの大らかなふれ合いの世界をつくりましょう。

「風よ吹け吹け ぼくのヨットを走らせて

水平線を目ざそうよ 大きな夢をさがそうよ」



写真で見る10年



金矢 泰弘

スターボー

この冒頭のかけごえを書かないと、なかなか文章がつかないことに今、気づきました。「MJYCの10年の航跡」という歴史を書き始めるに当たり、昨年のOPワールドの話から格調高く入っていこうかななどと、書き始めてはみたものの続かず、悩みつづけて2週間——10年前からのクラブの案内、日程など、書類をひっぱり出しているうちに、とにかく前おきなして、手紙の冒頭は「スターボー」で始まってました。

10年間、スターボーのあいさつで、よく書いたものだといさながらビックリします。今年の夏、10周年の行事に参加してくれた第1期生の目黒君の他に、岸本健太郎君が、ハワイから帰って来たし、岸本奈美ちゃんがお父さんを車にのせて浜に来てくれたり、香野泉ちゃんもインターハイのお手伝いに来てくれたり、とにかく、めずらしい人々と会うことが出来たんです。

「年とりましたねェ」と人に言われなくても彼等を見ているとつくづく自分の年を感じるんですね。

さて、15年前、国体でフィン級という種目がなくなり、これからクルーザーにでも乗ろうかと思って、4年くらい経ったとき、どこからか小さなカラフルなヨットが目に入りました。

それがオプティミストディンギー：OP級だったんですが、その時は、子供達に教えるなんてことは考えもしませんでした。その後、昭和53年県連のジュニアヨットスクールが開かれ、OPの姿が時々花淵に見れるようになりました。

そして昭和55年3月頃から、ジュニアヨットクラブの設立に動き始めました。……

写真を中心に、10年を振り返ってみました。



56年頃の整列



〈昭和55年春〉

「ジュニアヨット」いったいどんなことをするのか判らず、高橋理事長の紹介で、江の島ジュニアヨットクラブに視察に出掛けた。

4月の第2週は、江の島は結構あたたかく、金矢、山内は、カメラとメモを持って江の島ヨットハーバーに着いた。

「スターボーイ」子供たちが大声でさわいでいた。何んだこりゃ、セールもないし、海の上でもない、そうなんです、江の島ジュニアヨットクラブのあいざつは、スターボーイなんです。朝礼でも夕礼でもハーバーに来た時も、「こんちは」「さよなら」の意味なんです。

いただきノ 松島でもこれを使うことにした。

＝4月26日＝

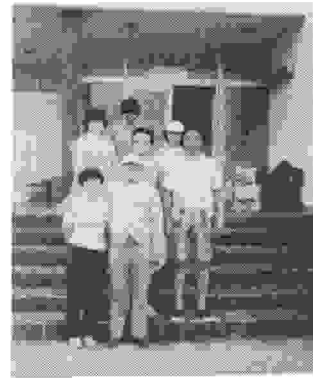
吉田先生をマスターと呼んで部長にし、コーチはインストラクターと呼び、金矢、山内を含め、東北大、学院大、塩釜女子のそれぞれOB7人でスタッフとしてスタートすることにした。でも、コーチはほとんどが独身、子供にヨットを教えるには早いかなとも思われた。（当時）

クラブ発足の案内状は、県連理事、大学・高校のOB各氏に送った。

＝5月5日＝

あとから気がついたが、この日は55年5月5日の5のゾロゾロ目でした。最初は子供の日とばかり気にしていたけど、とてもすばらしい日となった。

創立記念日である。



ついでに55人くらい来てくれるのではと思ったわけではなかったが、1人2人……と8人が来てくれた。(ここから、敬称を略します)

香野泉・芳里の姉妹、岸本健太郎・奈美兄弟、佐藤久展、松田渉・志保の兄弟、八島貴弘である。

花淵の漁民センターに集まり、クラブの案内をし試乗会を始めた。

救助船はその頃はなく、鈴木長五郎さんの船や、ヤマハ、学院大のものを借りた。

<昭和55年夏>

6月に県連から救助艇を贈入してもらった。

=55年8月2～3日=

あれこれしているうちに、第1期生と呼ぶ子供達は17名となった。

MJYC初めての合格は、OPで桂島にクルージングに行くことにした。5月5日から、7日くらいの練習をしたろうか、ヨットをやっと走らせることが出来る程度で、塩釜の航路をこえて行くのである。スタッフも親も心配であったが、子供達は恐いもの知らずであった。

OPに2人ずつ乗り、小浜を出た。少々うねりが高く、小さなOPは波間にかくれるときもある。

吉田マスターが「ついて来なさい」とOPに乗り込んで、先頭で走り出したもののランニングでは子供の方が軽くて早い。マスターをぬいて先へ先へと行ってしまふ。ヨットの止め方を知らないのも、航路では、救助船にぶっつけてブレーキとした。

この合宿でMJYCの第1号のユニフォームを作った。ラグビージャケットの丈夫なものであった。



=55年 8月16～17日=

第2回目の合宿は、学院大ヨット部の留守の宿舎を借りて行なった。フツンのきたなさに子供達は、ビックリしていて、なかなか寝つかれなかったようである。夜のゲームで、奈美に皆んなで質問をあげ「好きな人はだれですか？山内先生ですか」なんて言ったら泣いてしまったっけ。

次の日、初めてレース（ヨットフェア）に参加した。でもレースにならず、スタートから行き先不明のものばかり、スナイプ・470の障害物となって、かなり迷惑をかけたようである。閉会式の賞品だけは、キチンともらったようだ。



<昭和55年秋～冬>

=55年10月=

秋から冬にかけては、MJYCも大学生・高校生とどきように、松島海岸の方に移動して活動した。

朝9時に仙石線の改札口でインストラクター（いつでもリカ先生だったけど）と待合せして通った。それがとてもたのしかったようで、帰りにお父さんが車で来てても、大きなセールバックをかついでわざわざ電車で帰る子がいた。



=55年11月=

第1回クラブカップレース

残念ながら海は強風、そこで、松島海岸公園で陸上競技によるレースとした。徒競走・リレーで順位を決めた。岸本健太郎が、海とはウラハラにダントツで優勝を決めた。



反省

=56年1月1日=元旦セーリング

今でもMJYCの恒例の行事であるが、この日が第1回目の初日であったわけ。

6時53分は、この昭和56年も平成2年も変わっていない。ただ迎える人と、雲のかかり具合は異なっている。この年は、11時には解散した。

<昭和56年春>

香野先生が、55年夏に自作(513号)したのをキッカケに、故伊勢さんが1122号艇をつくりはじめ、クラブ自体としても、塩釜の鈴木サブマスターの倉庫で3艇の建造を始めた。

子供達も、親・コーチの指導のもとにティラー、パドル、ベラ、あるいは少々ビス止めまですることが出来た。この間、手旗信号にもチャレンジしてみたが………?

新聞の取材がうるさかった。

=56年4月26日=

513、1122号艇を含めて新建造艇5艇が、ハナバナしく進水、すべるように海面に浮かんだ。

カラフルセールに子供達の笑顔より親の顔がとても満足げに写っていた。

=56年5月5日=

2年目、満1才を迎えたMJYCは、一期生の17人に加え、その後ぞくぞく入部して来た。

子供の数と共に親の方も増え(あたりまえですが)親の会を結成した。初代会長には故伊勢さんがなりOP建造を中心に、救助艇の購入の件、クラブハウスの件etc、スタッフには心強い会が組織された。



〈昭和56年度〉

東北のジュニアヨットは、山形県が早くに組織されており、加茂、酒田、鶴岡等にクラブがあった。特に加茂では、小学校の体育の正課に入っており、町をあげてヨットに取り組んでいた。

そんな背景の中で「ぜひ、東北のジュニアの大会をやろう」という話がどことなく持ち上り、東北のジュニアのメッカ：加茂で行うことになった。

= 8月1～2日 =

夏期合宿。東北大会をひかえて、30名のメンバーは、レースになるかどうか判らないけど、スタートの仕方、マークの数、フィニッシュの方法等々を特訓した。

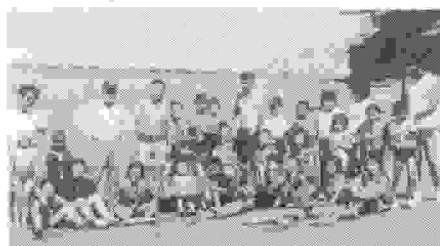
= 8月8日 =

「東北大会」門伝さんの運転するマイクロバスで七夕の仙台を出発した。途中、寒河江ダムをみたりミイラをのぞいたり、バスの中では歌の指導、「クマさん」は河本愛のデビュー曲となった。加山雄三もあったけね。

いよいよ加茂に到着。町の入口には「歓迎第1回東北ジュニアヨット大会」とデカデカと横断幕があり、“ウー”子供達はビックリ。

開会式は加茂小学校の校庭で、選手の入場行進から始まり、メインイベントは全校生徒の「花笠踊り」これには、まいった。

町の人々、全員が集まったのではなかっただろうか。



レースは、沖でする予定が、少々風が強く、港内ですることになった。

港内に20艇が浮ぶと、もうせまい。でも第1回大会は、これで良かった。運営陣の艇の誘導はのどが
かされた。まともに走れるのは、ほんの4～5艇。

レースは、ワンマンは鶴岡、酒田、松島がトップ
あらしい、目黒がおしくも第3位、奈美は3マーク
廻航で浅虫の男子とドッキング（センター上げたま
まだもんね）2艇は仲よくいつまでも離れなかった？

ツーマンは、MJYC超軽量（当時）の谷本香菜
子・河本愛組が、スルスルと集団をぬけ出し1位と
なり、伊勢・河本・早坂組もガンバって浅虫と2位
を分け合った。

表彰式は、故小沢吉太郎日本ヨット協会最高顧問
がお見えになり、子供達は賞品をいっぱいもらって
ゴキゲンであった。

＜昭和56年秋～冬＞

ヨットの数を大巾にこえるメンバーとなり、冬に
かけて、OPの建造を計画することになった。

石巻でもジュニアYCが誕生した。私達もその進
水式に応援にかけつけた。

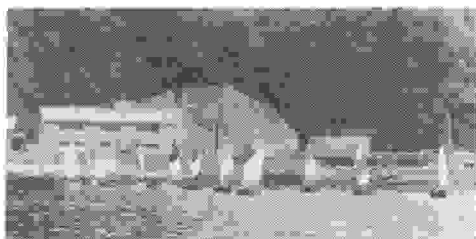
松島での建造の計画は次のとおりで、それぞれ場
所をさがして材料集めから始まった。

伊勢さんは、2艇目の建造にかかると共に、各建
造所を歩き指導をしてくれた。

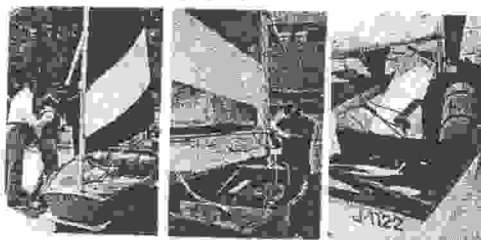
利府現場：伊勢・伊藤、桂島現場：千葉

塩釜現場：小畑・河本・谷本

岩沼現場：佐藤出・佐藤重・門伝・稲川



OP進水式



＝57年1月1日＝

恒例の元旦セーリングが松島で多くのメンバーを集めて行なわれた。この日はセーリングのあと、福浦島での缶ケリ、五大堂・瑞巖寺へのおまいりそして、たから屋でカキ鍋の朝食会を行なった。



この冬から、MJYCでスキーに行くことになり初めての子ども電車に乗って面白山に向った。

稲川コーチの指導は、初心者向けに行なわれ好評であった。



<昭和57年春>

いよいよ各現場のOPが完成に近づいていたが、4月11日に、塩釜港に96フィートのクルーザー「シナーラ」が入港し、MJYCがそろって乗船した。

当初、OPで出迎えに行くところであったが、強風のため見学のみとなった。



＝5月2日＝

堀江謙一のヨット教室が開かれ、ジュニアも参加した。OPの進水式を4月25日に設定し、各艇とも仕上げを急いでいたが、岩沼では製作より製体会議に重点がおかれ、2ヶ月も遅れてしまった。

第2弾 OP進水



＝4月25日＝

河北新聞、NHKのマスコミを呼び、進水式は盛大に行なわれた。

赤色、青色、黄色、国分町色？etcのヨットはカラーセールもまぶしく、協会登録Noを輝かせて花淵の海に浮んだ。昨年のクラブ艇の進水式とはまた別のよるこびがあふれており、心はすでに東北ジュニア、全日本OPの大会へと飛んでいた。



海に浮ぶ新艇

<昭和57年夏>

第2回の東北ジュニアヨット大会が花淵で行なわれることになっており、この大会に向け、強化合宿を2回組んだ。

第1回の大会が、加茂をあげての大会だっただけに、今回はどんな風なものにするか悩むところであった。開会式のセレモニーは、七ヶ浜の子供会の「しし踊り」をメインに、宿舎は多賀城自衛隊に体験入隊の形をお願いすることにした。

体験入隊は、子供達にとってはめずらしく、又若い隊員の方々がキャンプファイヤー、花火など準備してくれて、朝夕の点呼さえなければ、まあまあのようであった。

自衛隊の方々は、人の運搬、無線、救急、警備など多くの面で協力してくれた。

レースは、ワンマン・ツーマンとも松島の匠勝であった。地元の利という程コースを知ってたわけではないが、合宿の成果を十分出してくれた。

ハプニングは、抗議を出されて失格となった某女子選手をまわりの女の子がなぐさめたまではよかったが、プロテスト委員（審判）に石をなげたとか……。MJYCの選手でした。

<昭和57年秋>

自作OPは、東北大会でその走りに自信を持ち全日本OP選手権へ参加すべく準備に入った。

全日本は、神奈川県江の島で行なわれた。



＝10月9日～11日＝

全国より100艇のOPセーラーが集まった。

第14回全日本OP選手権大会は、子供達はもちろんコーチも初めてであった。

とにかくレースに参加出来るように、日本銅管の葉山寮に宿をとってのミーティングは熟が入った。

でもどれくらい走れるか判らない、もう、子供達に「おまえは走る」のアンジしかなかった。

前線通過で、海は大荒れ、未だかつて練習もしたことの無い状況。でもまわりの選手が出て行くのでウチの選手も、つられて出て行った。大丈夫かな？防波堤の先端に陣取ったMJYCの親10人は、双眼鏡をはなさず「あっ沈だ」「赤いセール、赤いセール走れ」「あれ、どこにもないぞ、あっ沈してる」などと…………。

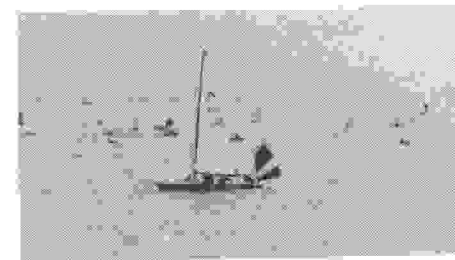
カラーセールだから良く判るんです。前の集団にはいないし、集団のうしろの方で白い波に色どりを添えて走っているもんで。

アカをためすぎて走れず、ソリングに助けられた香菜子「もっと走れたのに、くやしい！」と泣きながらくやしがったとか。

唯一、FRPの河本泰は、大健闘、小学生で26位女子の瑞生・亜紀・香菜子は5レース中3レースDNF（フィニッシュできず）でした。まずまずでしょうか。

でも自作OPが数多く参加してたが、MJYCのOPの出来ばえはダントツであった。

伊勢さんが、他のチームに得意そうに話していたのを思い出す。



＝57年11月＝

日本ヨット協会の最高顧問の故小沢吉太郎先生がMJYCをおとずれ指導して下さいました。

「先生の言うことをよく聞いて、元気よく頑張りなさい」



<昭和58年春>

第1期生は、高校生になる子も出てきた。

第4期生までの人数は、

高校生2名、中学生8名、小学生20名



満3才のMJYCの親の会が、総務部会となり6月19日、規約改正の総務部会の中で、部長に、伊勢さんから河本さんにバトンタッチされた。



<昭和58年夏>

全日本少年少女ヨット大会が、山形県酒田市で開かれ、全国からOPワンマン130艇、ツーマン22艇、ミニホッパー23艇が集まった。

成績は、ミニホッパーで河本浩が 4位

OPワンマンで香菜子5位、洋介7位

OPツーマンで吉原・奏組が4位



この遠征は、MJYC始まって以来の大遠征でチャータートラックにOP、ミニホッパー23艇、選手は山交バスで大移動をした。



<昭和58年秋>

全日本OP選手権は、琵琶湖で10月8～10日に開かれ、4人が出場した。

成績は、85艇中 泰40位、香菜子49位
洋介51位、晶文61位



<昭和58年冬>

元旦セーリングは、いつものセーリング、カンケリの後には、ホテル五大堂で朝食会を開いた。

風呂に入りスカッとして、少々ビールを飲みながら……。

これをジュニア風朝食会という。



<昭和59年春>

吉田マスターが、日本ヨット協会より、功労賞を送られ、宮城県ヨット連盟で、そのパーティーを県連理事、ジュニア関係者で開いた。



= 5月3～5日 =

東日本オープンヨット大会（山梨県、諏訪湖）に河本兄弟が参加した。

「東京へ出張のついでにちょっと近いからと思って参加してみたけど、遠いんですね」引率コーチ談。

成績は、泰がOPで7位、浩がミニホーバーで3位であった。



<昭和59年夏>

第3回東北ジュニア大会は、青森県浅虫で開催。浅虫ジュニアの仲間が元気よく歓迎してくれた。キャンプファイヤーの笹森先生のスタンプは見ものであった。

OPワンマンのレースは、2レースまで松島が上位を独占していたが、3レース前、浅虫の選手にチューニングのアドバイスをしたからかどうか判らないが、その子がダントツで走り、松島は逆転負けをしてしまった。

この夏、晴天が続き、クルージングは最高にたのしかった。舟入島でのバーベキュー、タイヤ飛び込みなど、自作OP13艇をつらねての松島周航は今でも心に残るものである。

MJYC東京支部の奥原さん一家も今回参加してグループごとのバーベキューに横浜の味を加えていた。

<昭和59年秋～冬>

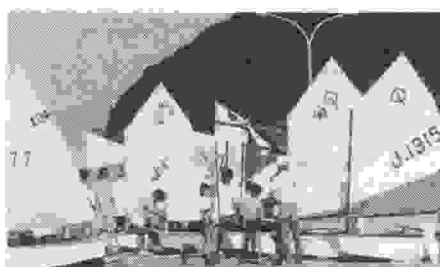
3回目の出場となる全日本OPは、各クラブの参加枠が絞られ、今回は4名となった。佐島マリーナ。

この全日本は、ワールドへ出場する日本代表選考レースの第1次選考会も兼ねており、20位以内が、来春の第2次選考会に参加出来る。

そして、MJYCで初めて、その第2次選考レースに出場出来る選手が出た。晶文であった。

冬の毎週日曜日、よく乗ったもんです。晶文はもちろん、香菜子、洋介も手伝って、特訓・特訓。

雪が降ろうが、10メートルの風が吹こうが、とにかく海に出た。



＜昭和60年春＞

佐島マリーナでの第2次選考レースに参加した晶文は、健闘むなしくキップを手に出来なかった。

でもこの大会までの練習は、MJYCのレベルをあげるのに大いに影響した。

この春、今年度の東日本OP大会は、花淵で行うことに決った。総務部長は河本さんから谷本さんにバトンタッチした。

＝昭和60年5月＝

第1回のクラブチーム選手権大会が静岡県の熱海で開かれた。これは、1チーム3艇のチーム対抗レースであり、松島からは2チームをエントリーした。

パインアイランドA、Bチームである。わかる？
(パイン:松) + (アイランド:島)

Aチームは 伊藤晶文、谷本香菜子・洋介

Bチームは 山浦由靖、早坂右己、佐藤和彦

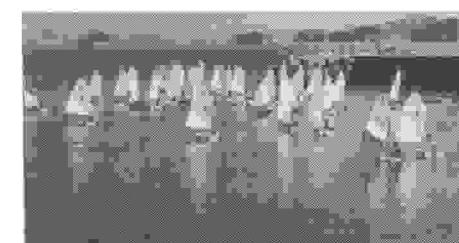
Aチームはシードされ、軽く予選を突破、Bは残念ながら予選敗退した。準々決勝は悪天候の為、延期。

＝昭和60年7月26～28日＝

静岡以北の選手48艇が参加し、東北ジュニアとは少々異なった東日本OP選手権大会が花淵で開かれた。

全日本へ出場権を得るためにも、このレースにかける意気込みは盛んで、シビアなレースが展開された。

また、この東日本の前日に、クラブチーム選手権大会の準決勝が松島Aと横浜Aの間で行なわれ、松島は決勝(江の島)ラウンドに勝ち進んだ。



この大会に向けてFRPの艇をビックボーイに注文していたが、新艇が8艇、大会前に届き、それで東日本大会に望んだ。

レースは、やはり関東勢が強く、松島では最高が香菜子の10位で、全日本へのキップは手に入らなかった。親の会のバベキューはサイコー！

＝昭和60年8月＝

第4回東北ジュニアは、再び山形に戻り、由良の海岸で行なわれた。

東日本、クラブ選手権など、レースなれして来てMJYCは、伸び伸びと走っていた。

ワンマンは1位洋介、2位晶文、3位香菜子、
4位山浦、5位右己の順。

ツーマンは工藤正行・相沢祐介組が1位になった。

※両クラス優勝は初めて。

＝昭和60年11月＝

江の島で全日本クラブチーム選手権大会の決勝ラウンドと、OP選手権が行なわれた。

クラブ選手権は、松島A、江の島、琵琶湖A、佐島の4チームで行なわれ、第1レースで松島は、ワールド選手2名の琵琶湖Aチームにわずかの差で敗れたが、3位決定戦で佐島を下し、全日本3位に輝いた。

(このチームレースは、現在も行われているが、第1回大会以降、時期的なこともあり、不参加が続いている)



全日本OPの方は、香菜子が第2次選考レースに残った。

初参加の尾形依子は、江の島に向う車の中から少々あがり気味で（ネボケたとまわりは言うが）力を発揮出来ずに終わった。

<昭和61年春>

香菜子は、佐島での第2次選考レースに1人で参加（親・コーチなし）し、よく健闘したが、5人の枠にとどかず泣をのむ。

だが、女子の中ではトップで、もし女子チームも組めれば代表となってスペインに行けたのに……。

＝昭和61年5月＝

東北大会を岩手県の宮古で行うことが決り、その準備の意味も兼ねて、ゴールデンウィークは宮古で合宿をした。

絶景の三陸海岸での合宿は、少々寒さも感じる程であったが、子供達は他の地での練習に大ハリキリであった。榊理事長にお世話になりました。

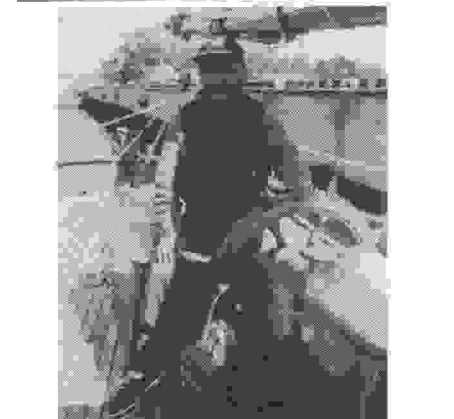
親・コーチはウニ丼と、ドンコ汁に舌つづみを打った。本州最東端のトドケ崎に向って寝ころぶ人間トド（岩沼の方）のアダ名はこのとき生れた。

＝昭和61年7月27日＝

私たちのクラブのOP建造そして初代の総務部長をして下さった伊勢荘太郎さんが、自作の21フィートクルザー「レッスン1」の上で、ティラーをにぎりながら亡くなった。46才。急性心不全。

＝昭和61年8月＝

第4回東北大会は、岩手県宮古市で行なわれ、〇



Pワンマンで、洋介は2連覇を果たした。ツーマンは相沢未央、佐藤英子組が初優勝した。ミニホバーは高校生にまじって香菜子が逆転優勝。

＝昭和61年9月＝

第1回MJYCゴルフコンペを塩釜の浦霞ゴルフコースで開いた。日頃、海で釣ザオを持っている手をゴルフクラブにかえてのクラブデー。

唯一のハプニングは、パター練習場でのロストボール？A先生のボールが、グリーンをオーバー、そのまま消えてしまったとか。

＝昭和61年10月＝

全日本OPは和歌山県の和歌の浦で開かれた。OP輸送は今までの最長距離であった。

レースは全日本初出場の哲太、愛、正行、右己がガンバったがカベは厚く、上位入賞出来ず。洋介が17位で、二次予選に残った。

<昭和62年春>

第二次選考レースを前に、洋介にウィナー（デンマーク製）のスペシャルが届いた。谷本さんワールド出場へ最後の祈りを込めて購入したものであったが……。

<昭和62年夏>

第6回の東北支部ジュニアは、東北博覧会会場内の噴水がふき出す海面で行なわれた。海面のまわりはいっぱいのギャラリー、選手はコーフン気味であった。

洋介は、わざわざ沈のデモストレーションもしてくれた。（素直でしたあの頃）

洋介が3連覇。愛2位、右己3位。

ツーマンは、まどか・木村洋介組が2位。



伊勢さんとOP



この大会、西武の協賛があり、素晴らしい賞品が用意された。レース終了後は、子供達は博覧会場にとび出し、遊園地の乗り物に乗れるという最高の場所でもあった。

又、この東北博に合せて、国際14フターの世界大会が七ヶ浜の松ヶ浜で開かれ、MJYCのお母さんたちのバーベキューに、イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリアetcの選手は感激していた。

言葉が通じたかどうかは判らない。

<昭和62年秋～冬>

松ヶ浜に県連の事務所が移って来たことによりジュニアも活動基地を松ヶ浜に移すことになった。

この年の全日本OPは、静岡県の宇久須で開かれ、愛、哲太、未央が参加した。

皆んな仲良く、57、59、67であった。

<昭和63年春>

= 2月20日 =

スキー合宿を毎年鬼首スキー場で開く。
シナネンの保養所は貸切りで、カラオケ、お酒、温泉付き。

しかし、翌日のスキーは、強風で最悪だった。



＝3月26日＝

「転勤だ転勤だ」と毎年この時期にさわいでいた稲川コーチがついに山形に転勤と決り、送別会を行なった。

今度こそ、いいヨメさんを見つけてくると出ていったが……。

<昭和63年夏>

いつも桂島の民宿での合宿であったが、今期はテントを持っての「サバイバル合宿」ということにした。

寒風沢の砂浜でのキャンプは、雨とカミナリの中で、満足のいくキャンプではなかった。

＝8月19～21日＝

東北大会は浅虫で、北海道の仲間も加え「第1回東北・北海道ジュニアヨット大会」として開催された。

北海道は、函館、江差から参加してくれた。ヤマセが吹く、結構きつい気象条件での大会であったが、OPワンマンは、仁・哲太が1、2位。

OPツーマンは、藤子、勇人組が2位。

祐介、英子、巧組が3位であった

この年の全日本は、来年開かれる「OPワールド」の会場である横浜市の金沢八景で行なわれた。

OPワールドに向け、強化選手の力が他をよせつけず、ちなみに仁・未央も寄せつけられなかった。

でも、松島ではハゼがいっぱい釣れた。洋子や藤子にも釣られる、アホなハゼであった。



<昭和64年春・平成元年>

OPワールドの選手選考の第二次が葉山森戸海岸で行なわれ、再度MJYCはチャレンジしたが、又又、カベは高く厚かった。一生懸命練習したんだけどな～～。

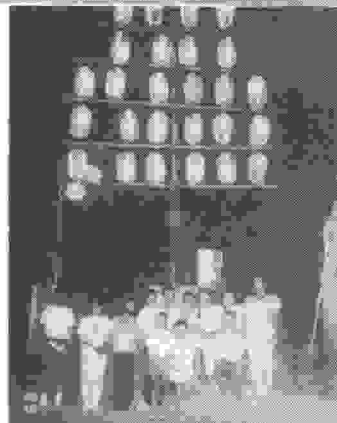
ご父兄、コーチごくろうさんでした。



<平成元年夏>

第8回の東北大会は、秋田の八郎潟で開かれた。大会期間は「芋燈」の最中で、選手達も夕方秋田市内に出て行き夏祭りをたのしんだ。

八郎潟町の特製「カモナベ」は、暑さと汗の大共演の中で味わった。飲んだものが、あっという間に汗になり、まったく酒酔がしなかった。



<平成元年秋～冬>

MJYC10周年を来年にひかえ、記念行事の1つとして、海外遠征があげられた。

OPワールドで知り合ったアセアン地区の監督に行っても良いか打診してたところ、11月にアセアン大会があることが判り、さっそく香野先生を団長として哲大、孝を来年の下見の意味も含めて、初の海外遠征に派遣した。



<平成2年春>

クラブの海外遠征を決めるか否かで、会議を持ったが、観の数は良いとして、選手が受験期、さらにそれ以外の選手では力不足で相手に失礼に当るだろうということから、今回はその計画を取り止めることにした。

3月11日第3回MJYCゴルフコンペ：宮城野C

・C、優勝 谷本昌春 16名参加

満10年を迎える5月は、宮城インターハイの強化合宿と重なり、おりしもコーチに来ていたオリンピック選手の小松一憲さんとジュニアが対面する機会が持てた。

今年は諸般のレースが重なるところから、東北大会は中止となった。その為MJYCでは、青森で開かれる青函レースに参加し、その後浅虫Jrと合同合宿をすることにした。

青函レースは強風で1レースのみとなったが、OPワマンでは祐介が1位になった。この大会ではインターハイの為、来れなかった各コーチ陣に代って手伝った中3、高3の受験生の働きが目立った。こまったときに働いてくれる「MJYC自衛隊」の名が生まれた。

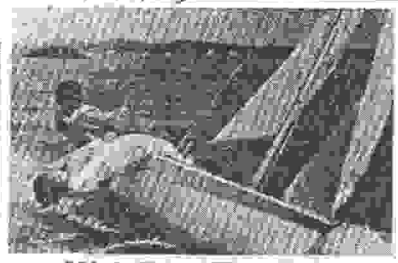
<平成2年夏>

10周年行事の第2弾、仙台湾横断OPリレーは、台風の通過を持ってスタートした。

宮城テレビの取材の中で、大きなうねりを乗りこえて松ヶ浜を出た。しかし、風がおちつかず、又風向きが悪かったので一担船にひき上げ、綱地島付近まで運ぶことになった。島近くで、OPをおろしたが、風がなくえい航の型で「キセル横断」は成功した。？



テツタとタカシ（6才と15才の違い）



夏季ヨット少年女子代表

頑張れ二世、高一ペア

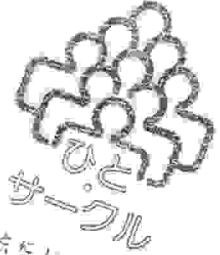
親譲りの才能、上位狙う

八日、前橋市で開かれた全日本ヨット選手権大会。男子部では、松島ジュニアヨットクラブの松島健二(高二)と松島大輔(高一)のペアが、男子部で上位を狙っている。松島健二は、父松島健一(元日本代表)の才能を継いで、ヨットに打ち込んでいる。松島大輔は、兄の才能を継いで、上位を狙っている。二人は、練習を重ね、上位を狙っている。

香野 泉さん(仙台南)
岸本奈美さん(学院城)

七ヶ浜町松ヶ浜 松島ジュニアヨットクラブ

本会は、昭和57年に設立されたヨット愛好者の集まりです。現在は、松島ジュニアヨットクラブとして活動しています。メンバーは、松島健二、松島大輔、香野泉、岸本奈美などです。練習は、七ヶ浜町の松ヶ浜で行っています。来年度は、上位を狙っています。



ひとづる

有力選手、次々と誕生

本会では、有力選手が次々と誕生しています。松島健二、松島大輔、香野泉、岸本奈美などが、上位を狙っています。来年度は、上位を狙っています。



安全第一、楽しく練習

みやぎ県政 だより
昭和63年7月1日

マイタウンかほく
平成2年8月1日

メンバー募集

松島ジュニアヨットクラブ
本会の上を音もなく進むヨット、青い空によく似合っています。このヨットを操縦するのは、松島ジュニアヨットクラブ(総務M JYO)のホ・中学生。M JYOは、夏祭ヨット連盟の指導を受け、七ヶ浜の松ヶ浜で活動しています。夏の合同、ツアー、元日セーリング大会、Xマスパーティー、元日セーリング大会など、楽しいイベントもたくさんあります。今年で結成十周年、あなたもM JYOの仲間になって、ヨットを楽しみましょう。

夏休みの

夏休みは、ヨットが大好きな季節です。松島ジュニアヨットクラブでは、夏休み期間中に練習会を開催しています。ぜひ参加してください。

昭和57年4月26日

松島湾へ

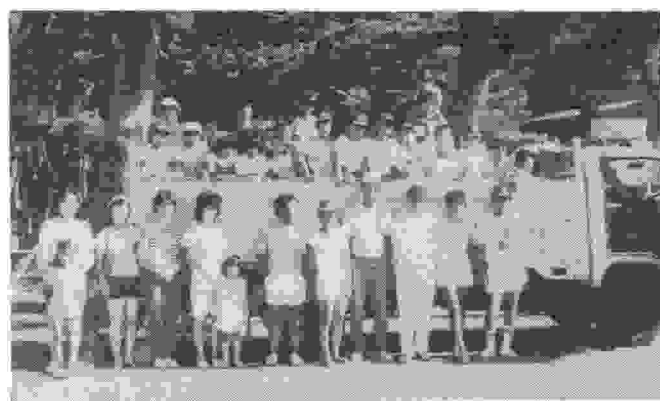


1. 初日の出セーリング（1月）



元旦の夜明け前、松島のヨットハーバーからセーリング。初日を样んだ後で朝食会、冷えきった体

- 8. イヤーエンドパーティー（12月）
ヨット関係者全員集合、ジュニア万歳！
- 7. OP試乗会
七ヶ浜町のお友達とバーベキュー
これで仲間も増えました。



6. 遠征試合（8月）



8月中旬、宮城、青森、山形、岩手、秋田のどこかで東北大会。練習で泣いて試合で笑おう。

5. 合宿練習（5月、8月）

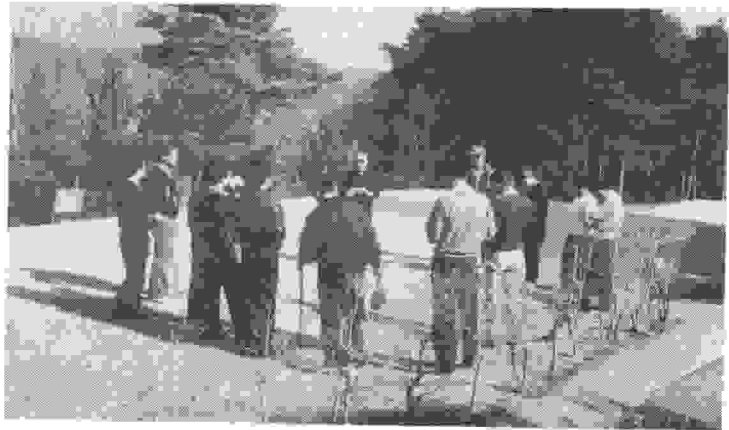




こゆったりお風呂 今年もガンパロー！

2. ゴルフコンペ（1月）

正月3日、恒例の父親ゴルフ大会
ある時、ボールとクラブヘッドと一緒に飛んだ?!
超一級の特技の持主は誰？



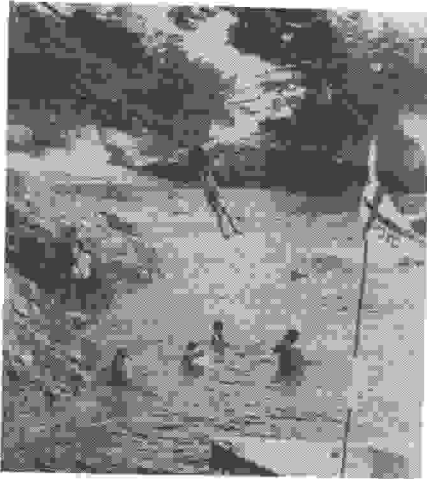
3. スキー合宿（2月）



の年中行事

鬼首、蔵王、泉ヶ丘、
今年は何処？
ゲレンデの花（遅咲き？）
大人達は御座敷……が楽しみ。

4. クラブデー（3月～11月）
〇〇〇！ シーパーしているぞ！
シート…… ティラー……
早く上手になろう。



5月の連休、8月上旬、2度の合宿、
桂島、舟入島、楽しい思い出いっぱい。



編集責任者
 仙台市東区上谷町字丸山3-149
 TEL373-7393
 マネージャー 金井 泰弘



第3号 平成2年6月1日発行より

海の楽しさを君にも!!

昨年開催しましたが、今年も
 下記の日程で試乗会を計画してます

これは
 七ヶ浜町の公民館とタイアップして
 町内の小中学生を対象とした企画で
 す(原則として)

卓越した? 君たちのウデと 甘い
 マスク??でヨットの楽しさを仲間
 に伝えよう

※とき 6月10日 10:00
 ※ところ 松ヶ浜

※かいひ TADA
 七ヶ浜町以外の仲間も連れてきていいよ

ノーベキューもやるよ

“ニューセールズ”

手作りヨットでスタートした私達のクラブも、その後
 自艇制度へと移行しました。
 そしてそのきっかけとなったのが、1985年に七ヶ浜
 町小浜で行われた東日本OP級ヨット選手権大会です。
 胸を熱くした、あの日々の名艇達……。
 時代が移り、あの名艇達が今新しい名(迷)乗り手に
 引き継がれ、七ヶ浜の海を又、熱くしようとしています。

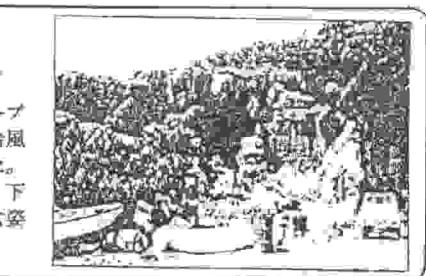
頭張れ	セールNo	新スキッパー	
	1656	木村 洋介	小4
	1657	星 智恵子	小5
	1658	西 條 昌 紀	小5
	1659	(あるじ求む)	
	1287	鈴木 邦 親	小5
	1288	佐藤 英 子	小6
	1720	橋 内 潤	小4
	1743	千 田 亜 紀	小6
	2145	金 矢 勇 人	小3
	2098	梅 沢 祐 介	中1
	2099	渡 辺 巧	小3
	2165	(あるじ求む)	



KEIKO

第1号が発行されました。B5版6頁の本格的なもので、
 のでしたが、この時はまだ名前がついておらず、ごらん
 だ。部員に名前を募集してやっと付けてもらったのが、こ
 ジュニアメンバー谷本洋介君の作です。しかし、第2号の
 と大幅に遅れてしまいました。残念な事に、当初の目的で
 者が多忙? のため、断念せざるをえなかったようです。

3号で、型はB4版、ワープロ使用の両面コピーとなった
 ります。まずは次号を乞う! ご期待……。



ターポー!

が出来ました。
 2のときに新聞の名前募集で応募し、選ばれ
 んですが……。
 0歳です。その時のインストラクターの年令
 い。
 うと、総務部は考えております。

初めての東北大会

西条 昌紀

るのでどんな所か早く行ってみたいかった。たくさ
 だ。
 にならないようにしようと思いましたが、びりに
 と同じ位じょうずにできました。三回目、台
 しやったけれどリタイアしましたが、でも、6位にな
 うれしかった。なくさん練習をしたから6位になれ
 はかんとうも見に行ったり、お友だちもできました。
 おもいます。

1年12月1日発行より

感 想 文 集

ヨットレース
(第1回東北大会)

谷 本 香 菜 子



「バーン」

一回目のピストルがなりました。

「ババーン」

二回目のピストルです。

「五、四、三、二、一、バーン、スタート」第一レースでスタートした時、あまりドキドキしませんでした。私は時計をもっていたので、みずいちゃんやそのほかの同じクラブの人たちと、固まってスタートしました。でも上マークに行くまでの、半分も行かないうちに、バラバラになってしまいました。と、言うのは、私とみずいちゃんは、固まりからはなれて前に進み、ほかの人は、どんどんおくれれて行きました。……中略……

いつの間にか、みずいちゃんもあずき色の船も、一マークほどもはなしていました。その時ちょうど、小さくてかわいくて、みんなの人気ものの愛ちゃんがクルーでした。愛ちゃんは明るい性格なので、いろいろな空そうをしてあそんでいました。だから、今、トップだからといって気がゆるんでぬかされないように、今、ちょっとおくらせている。というそうぞうをしました。愛ちゃんは大げさに、びりになっていることにしようとか、あと1分でタイムリミットのことしようとか言いました。1、2、3マークまで回って、もう少して1マークを回る、という時、ピストルが2回なって、コース短しゅくになりました。私は、マークを回り、青いクルーザーを回ってフィニッシュしました。フィニッシュしたと思ったのになかなかならないので、一しゅんシーンとなりました。やっとピストルがなった時、みんながワッーと大きな声をあげました。こんな気持ち、はじめてです。……略……スタートの時、心ぞうが、自分でもおどろくほど動いています。昨日とは大ちがいです。ピストルの音が3回、スタートです。今日のスタートはかたまってしませんでした。あせっていたので、ちょっとおくらせてしまいました。でも、かるくぬけました。前の人がシバばかりしておそかったからです。スタートがおくれたせい、白い船においつかれそう、よそ見ばかりし、シバばかりしていました。それでもまた差をつけて、おそい船と

は一周ほどの差がつかしました。さいごの3マークを回るちょっと前で、弟の洋介と門伝君ののった船に会いました。門伝君が「がんばれよーっ」と言ってくれました。この大会はこじんせんだから、門伝君にとって私はできのはず。なのに、あんなことを言ってくれたので、なんて返していいかわかりませんでした。だけど思わず、「そっちもがんばってねーっ」そう言ってしまいました。ゴールはすぐ近く、みんなのおうえんが聞こえてきます。とくに稲川さん、あきちゃん、目黒くんの声がひびきます。「バーン」。やっとフィニッシュしました。これでゆうしょうです。……………中略……………

トロフィー、賞状、カップ、たて、メダルなどをもらって、みんなにどう上げされてから、ああ私は勝ったんだ、第一回の東北大会で優勝したんだ、とうれしさがこみあげてきました。あとから聞くと、けちな弟が、私が優勝するようにと海に十円をなげてくれたそうです。ほかの人から思えば、たかが十円くらいと思うかもしれませんが、私にとってはとてもうれしいことです。

家に帰ってからお父さんにこう言われました。「お前一人の力で勝ったんじゃないぞ」と。私と愛ちゃんが優勝できたのは、私一人の力で勝ったのではなく、もちろんクルーの仕事をしてくれた愛ちゃんの力、いろいろとヨットをおしえてくれた先生方や、お父さんの力、こうぎきを作ってくれたりカ先生の力や、風見を作ってくれた伊勢さんの力などで私が勝てたと言われたのです。私は、お父さんの言ったことの意味がよく分かりました。

あじ島がっしゅく

(10周年記念仙台湾横断)

三年 皇 直 人



船にのっていたらどんどんとしりをぶっつけて、ちょっといたくてがまんしていたら、もっといたくなってしまう。しりをぶつけた場所をかえてもいたくて、またおなじ所にもどってから、「なんでこうなるんだ」と言っているあいだに、大きな波がきて、しりをおもいっきりぶつけた。

そういうのがあじ島の近くまでつづいて、しりがいたいので泳ぎました。そして、ミニホッパーの所まで泳いでいきました。水の温度はつめたくて気持ちよかったです。

かいせい荘にとまりました。

そして、おきてから、みんなでさんぼに行きましたが、おもしろくありませんでした。

きんか山に行っておどろいたのは、しかのつのがあんなにのびるとは思わなかったこと

です。それから、きんか山のちょうじょうへ行ってつかれたけれど、おもしろかったです。どうしてかという、ちょうじょうの近くの石をひろって友だちに見せようと思っていたのに、下りてから手をみたら、石がなくなっていて大わらいしたからです。



あじ島に行ったこと (10周年記念仙台湾横断)

四年 橋内 潤

8月11日にあじ島に行きました。初めはOPヨットだけでいくのかと思いました。ぼくは邦近君と乗りました。初めにぼくがクルーになって乗っていたら、「すぐにもどってこい。」と金矢先生に言われ、浜にもどって昼食をとりました。今度は、邦近君が気持ちが悪いと言っていたので、ぼくがスキッパーになりました。波の高さもうねりもいつもとあまり変わらないようでした。沖に出てから、金矢先生に「スキッパー交代」と言われ、交代しました。別に残念だとは思いませんでした。ぼくはパドルでこぎました。その時、テレビカメラにも写りました。それから邦近君の家のベルウッドⅡ号に引っぱってもらう時に、「一人あがっている」と言われ、ぼくが上りました。ベルウッドⅡ号に乗って少ししたら巧がもどしてしまいました。たいくつで目をつむっていたら、そのまま眠ってしまいました。しばらくして、巧がひっかくので目がさめました。前の方にあじ島がかすんで見えました。

陸に上がったら急に頭がくらくらしてきたので、少しすわっていました。それから荷持っつを持って美浜荘に行きました。おふろの後でごはんを食べました。おかずにうにができました。半分になってもまだ生きているので、よく生きていられるなあとびっくりしました。うにをしょう油の入っている皿に取ったら、少し、しょっぱくなってしまいました。うにの中身を食べてもまだ生きているので、すごいと二度びっくりしました。クジラのさしみもできました。初めてだったので、いったいどんな味かと思い食べてみたらおいしかったので、他の人の分もあわせて、あるだけ食べてしまいました。みんなは気持ちが悪い、と言っていました。ごはんの後は花火をしに行きました。

次の日は金か山に行きました。坂が急で登りづらかったけれど、頂上までがんばりました。頂上には何もありませんでした。帰ってきてから船をだしました。ワンマンで乗りました。少し風があってこわかったので、早く交代したいと思いました。交代してから海水浴をして遊びました。金か山の海は底が少し見えてきれいでした。

MJYC初の海外遠征 第3回アセアンOP選手権に参加して



チームリーダー 香野 俊一

ヒョンなことからチャンスがめぐってきました。横浜で開かれたOPの世界選手権で、金矢コーチと大会運営のお手伝いをしていた時のことですが、友達になったマレーシアの監督から、アセアン大会に、日本にも参加を呼びかけていることを聞いたのです。さっそく手を挙げて、1989年度東北ジュニアヨット大会で1位と2位になった香野哲大と門伝孝の2名の代表派遣を日本OP協会、日本ヨット協会に認めていただきました。出発まで1ヶ月余り、マレーシアのレース委員会との交渉、パスポートの申請、備品の準備やおみやげの用意等、あっという間に過ぎてしまった。

11月17日、雨の中、夜の10時30分発、夜行バスで成田空港に向いました。朝まだ薄暗い5時20分着、バスの中では余り眠れませんでした。空港で休憩時間はたっぷりです。マレーシ航空10時発の飛行機に元気に乗り込み、18時20分、マレーシアの首都クアラルンプール(KL)に無事到着しました。そこに3泊して暑さにも慣れた21日の朝、ホテルからハイヤー(ベンツ)でレース会場のポートディクソンに向いました。そこはKLから南へ約100km、歴史の街マラッカに程近い港町です。ホストのポートディクソンヨットクラブは、広い敷地の中に艇庫はもちろんプール、テニスコート、レストラン、バー、宿泊施設等が整ったすばらしいクラブでした。到着した時、驚いたことには、開会式がなくなってしまった所だったのです。出席する大臣の都合で予定より早くなったそうです。おおらかなものです。参加国は、マレーシア、シンガポール、インドネシア、タイのアセアン4ヶ国とオーストラリアそして日本が入って計6ヶ国、選手は総勢50名でした。監督、選手の中には横浜のOPワールドで顔見知りになった人達が多勢いて、皆な温かく迎えてくれました。

さて、翌22日はアセアンチャレンジカップ、国別対抗のチームレースです。マレーシアはA、Bの2組出場、計5チームのマッチレースがあり、結局マレーシアA組が優勝しました。チームレースの間、我が日本のホープ、哲大、孝の2人は、練習のためマラッカ海峡の海の上でのんびりと昼寝を決めこんでいたようです。次の日23日からは3日間、1日2レース、計6レースの個人選となりました。チャーター艇は全部ウィナーの新艇で、気持ち良く走れたと思うのですが、いかんせん風が弱く、哲大、孝の体重では多少重すぎたようです。毎日第1レースは10時スタートの予定なのですが、風待ちのため、連日午後



クラブハウス内の歓迎デコレーション



マレーシア海軍の帆船・船長さんと



遠浅の海岸で、潮が引いた時の出艇



マレーシア海峡での風待ち屋敷



マレーシアの選手達と、クラブ中庭で



さよならパーティ、もう全員友達だ

からのスタートになってしまいました。風待ちの間、我が選手達はマレーシアの伝統球技セバタクロをしたり、広いクラブ内を歩き廻って適当に時間をつぶしていたようです。私はといえば、友達になったマレーシア海軍の大型帆船の船長さん、海軍少佐達とビールを酌交わしてほろ酔い気分の楽しい一時でした。ところで、やっと始まった第一レースのトップは8才のライアン君、体重25kg位でしょうか、かわいい坊やという感じで、レースが終るとお母さんに甘えてだっこしてもらっていました。超微風の鏡のような海面では軽量級が有利です。ただ、一度だけ吹いたレースがありました。急に7~8 m/sの風が吹きはじめ、波もけっこう高くなりました。その時、折悪しく我がホープ孝のマストにトラブルが発生し、陸に戻って来てしまいました。スタート時刻が迫っています。何とか応急処理してレース海面に送り出しましたが、その時の孝の真険な顔、「お願い！スタート時間遅らせるように頼んで！」。絶対レースを捨てないぞの意気込み、頼しく思いました。レースには間に合ったものの、トラブルがまた出てセールがはずれ“沈”してしまいました。起こして直して走るとまた“沈”の繰り返しです。しかし最後まであきらめずに走ったのです。レース委員に「ジャパニーズボーイのガッツだね」と言われた時は本当に連れてきて良かったと思えました。この強風の中のレースで先のライアン君は、風が強くなると同時に陸に逃げ帰ってしまい、あとでコーチからしかられ、皆の前で罰として腕立て伏せをさせられていました。個人選で優勝したのはマレーシアのイリア君、お父さんは海軍の副長官です。レースの観戦はいつもこのお父さんと同じボートでした。息子がトップでフィニッシュする度に、「ウェルダン、ウェルダン」(よくやった、よくやった)と言って喜んでいました。残念ながらうちの息子達は一度もこの言葉を私に使わせてくれませんでした。とに角2人共半分以下の成績でしたが、レースの外ではそれ以上のことを学びとったと思います。一つ面白いエピソードがあります。子供同志が遊んでいる時の、哲太、孝の言葉の唯一のより所はタイの選手で、よしえちゃん。お父さんが日本人なので日本語がOKです。そのよしえちゃんが“宝さがし”のゲームをまちがって“かくれんぼ”と教えてしまったらしいのです。二人でいつまでもかくれていたのですが、誰も探してくれず、おかしいと思って出て来たということです。大笑いしてしまいました。

レースも無事終って、私が2人の選手に期待したことは、“この次来るまでにもっと英語を勉強したい”と思ってくれることでした。しかし哲太曰く、「友達作るのに言葉はいらないよ、ハートだよ」とは、困ったものです。帰国後、マレーシアの2人の女の子から手紙が来たのに今だに返事を書いていません。一方、孝はホテルの中でも一生懸命英字新聞を読んでいて、いや読もうとしていたのです。いつか二人でまた行く時には、孝が哲太の通訳をしてくれることでしょう。今度はクラブ全員で海外遠征したいですね。

太平洋を横断したい。絶対に！（香野 哲大）

子供達のセーリングを見おろせる場所に

素敵なクラブハウスが欲しいです。（香野 母）

専用の

ハーバー

が欲しい

なあ。そ

して、メン

バーをいっ

ぱいふや

したい。

（星智恵子）

ヨットで

アメリカまで行き、またヨットで帰ってきたい。

（星 直人）

大会でいろんな所に行けて友達もたくさんできたよ。

（佐藤英子）

ヨットの楽しみがわかってきた。ずっと続けたいなあ。

（佐藤和彦）

親子共に丈夫になれたし、おつき合いの輪も

広がりました。（佐藤 母）

マレーシアに行けてとてもよかった。

（門伝 孝）

親も子も伸び伸びとヨットライフを楽し

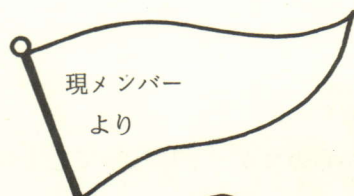
めるステキなクラブです。（門伝 母）

強風でもリタイヤせずにフィニッシュ

できるようにしたい。（橋内 潤）

浅虫の合宿は楽しかった。（橋内葉子）

海の楽しさを伝えたい！（橋内 父）



Viva

M

ヨットで東北一に

なりたけれど、釣

もしたいなあ。

（金矢 勇人）

Jr. のコーチをして、小さい子

供達を上手にしてあげたい。

（村井 藤子）

一人っ子の娘に兄弟のような仲間

がたくさんできました。

（村井 母）

自分の船ができたので、もっと

優勝したい。（西條 昌紀）

大きい子も小さい子も一つ

クラブです。（西條 母）

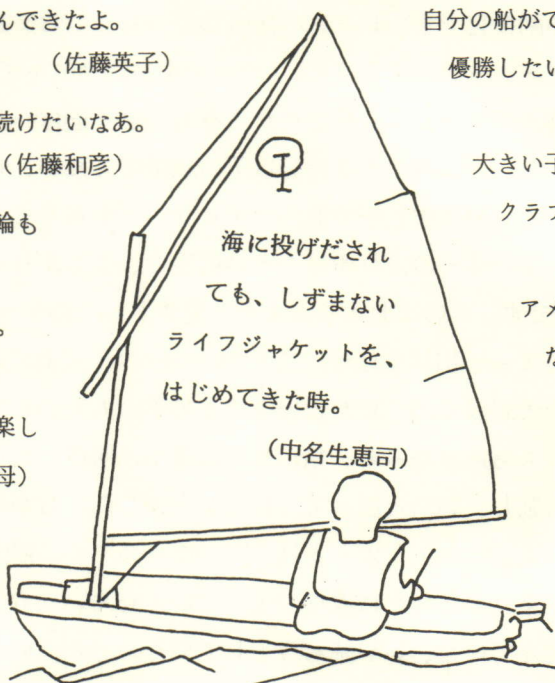
アメリカズカップ日本

なりたい。（今野

息子が、喘息だっ

えないほどたくま

た。（今野 母）



Yacht

J Y C

お姉さんとペアーで優勝

したい。(佐々木隆徳)

自然の雄大さと恐さを実感し

団体生活の大切さも解ったよ

うです。(佐々木 母)

練習して東北大会で

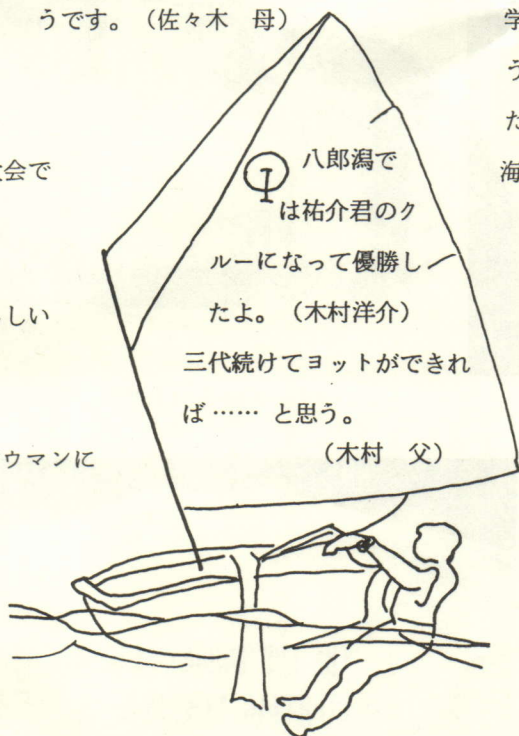
たくなって素晴らしい

チャレンジのバウマンに

洋志)

たなんて、思

しくなりまし



クラブは忙しいけど、いろんな体験ができるよ。(鈴木邦近)

いろいろな活動に積極的に参加でき、あじ島行きも楽しんだようですね。(鈴木 母)

日々是好日

波ニモ負ケズ 風ニモ負ケヌ 丈夫ナ体ヲモチ
色ワ黒ク 決シテアセラズ 必死ニ帆ヲハッテイル
南ニチンシタ舟アラバ 行ッテ助ケテヤリ
北ニマークタッチシタ舟アラバ 行ッテ替ッテヤリ
東ニマストガ折レタ舟アラバ 自分ノヲカシテヤリ
西ニオソイ舟アラバ ヒッパッテヤリ
気が付クト レースハ イツモビリデ
デクノ坊ト呼バレ 誉メラレモセズ 苦ニモサレズ
ソウイウ者ニ

私ワ………… ナリタクナイナァー

宮澤(星)博

学校の友達にはできないヨットを走らせられるのが
うれしい。(千田亜紀)

たくさんの友達ができたよ。(千田光平)

海に対する恐怖心がなくなりましたね。(千田 父)

心に刻まれた思い出がいっぱい。将来はヨットの
インストラクターになりたいなあ。(渡辺 仁)

松島ローヤルクラブの設立を！(渡辺 父)

ヨットでのんびり世界一周をしたい。

(相沢未央)

アメリカズカップのタクテションになりたい。

(相沢祐介)

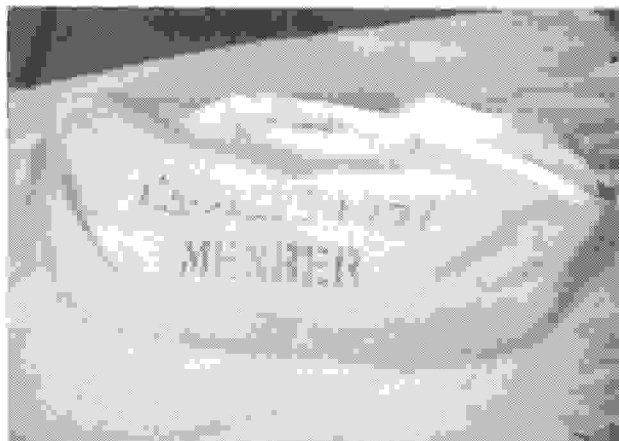
10mを越す風の中、レースを終えて帰る。

メンバー達の素晴らしい顔々々……(相沢 父)

“懐しグッズ”



松島 Jr 初の制帽です (1980)



メンバーお揃いのバッグです (1980)



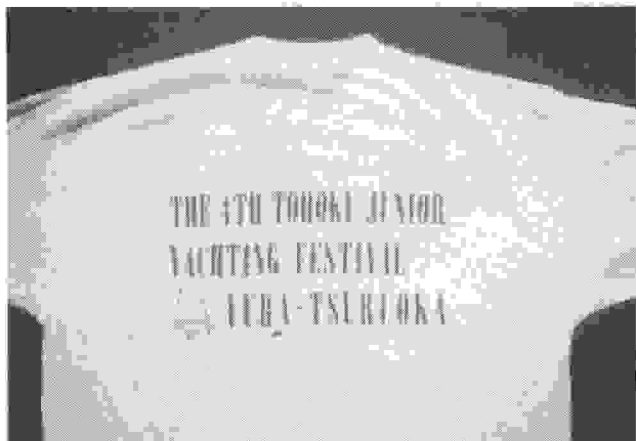
ユニホームを着て遠征しました (1980)



バッグNo.2 (1985)



第2回東北大会は松島でした (1982)



第4回東北大会 山形県由良海岸



第5回東北大会 岩手県宮古港



第6回東北大会は東北博覧会場でした



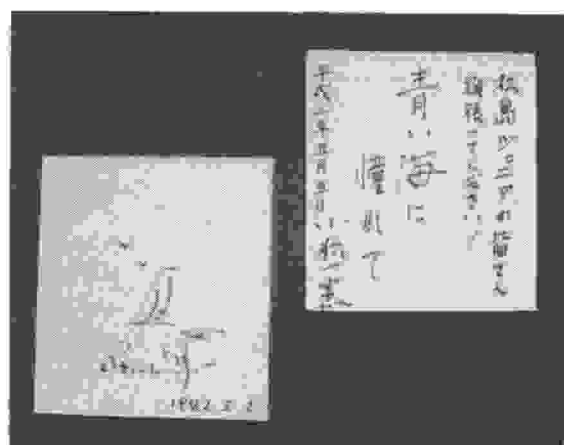
第6回のデザインは谷本氏



第7回大会は北海道も入りました



東北大会1～8回のパンフレット



堀江謙一、小松一憲選手の来訪

東北ジュニアヨット大会の記録

第1回大会 (山形県加茂港沖)

昭和56年8月 7日～ 9日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
ワンマンの部	酒田二中	堀 英明	①	ツーマンの部	松島J・Y・C	谷 本 香菜子 河 本 愛	①
	鶴岡少年少女	泉 屋 伸	②		浅虫J・Y・C	成 田 聡 熊 谷 賢治	②
	"	菅 沢 宏昭	③		松島J・Y・C	伊 勢 みずい 河 本 早坂	③
	松島J・Y・C	目 黒 賢 一	④		加茂ヌボ少	佐 藤 豊和 佐 藤 隆	④
	鶴岡少年少女	田 中 博 志	⑤		松島J・Y・C	伊 藤 晶文 河 本 河本	⑤
	"	石名坂 幸 芳	⑥		湯野浜 Y・C	五十嵐 美智夫 五十嵐 哲	⑥

第2回大会 (宮城県七ヶ浜沖)

昭和57年8月20日～22日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
ワンマンの部	松島J・Y・C	目 黒 賢 一	①	ツーマンの部	松島J・Y・C	谷 本 香菜子 河 本 愛	①
	浅虫J・Y・C	成 田 聡	②		"	伊 藤 晶文 早 坂 右己	②
	松島J・Y・C	岸 本 奈 美	③		"	小 畑 亜紀子 蜂 屋 ゆき子	③
	"	岸 本 健太郎	④		"	河 本 泰誠 吉 原 介	④
	"	香 野 泉	⑤		"	谷 本 洋介 大 元 猛	⑤
	加茂 Y・C	泉 屋 伸	⑥		"	河 本 浩卓 千 葉	⑥

第3回大会 (青森県浅虫ヨットハーバー)

昭和59年8月17日～19日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
ワンマンの部	浅虫J・Y・C	成 田 聡	①	ツーマンの部	松島J・Y・C	河 本 愛子 尾 形 裕	①
	松島J・Y・C	伊 藤 晶 文	②		浅虫J・Y・C	宮 嶋 洋介 葛 西 龍	②
	"	谷 本 洋 介	③		鼠ヶ関J・Y・C	佐 藤 彰宏 佐 藤 義章	③
	"	谷 本 香 菜 子	④		加茂ヨットスポ少	佐 藤 一行 田 沢 一則	④
	浅虫J・Y・C	橋 本 恵 明	⑤		浅虫J・Y・C	成 田 親哉 緒 名 史哉	⑤
	"	野 村 敦 志	⑥		松島J・Y・C	尾 形 依子 金 矢 まどか	⑥

第4回大会 (山形県鶴岡市由良)

昭和60年8月16日～18日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
OPワンマン	松島 J・Y・C	谷本 洋介	①	OPツーマン	松島 J・Y・C	河本 泰	④
	"	伊藤 晶文	②		松島 J・Y・C	河本 泰	②
	"	谷本 香菜子	③		酒田 J・Y・C	田賀 昭子	③
	"	山浦 由靖	④		酒田 J・Y・C	石塚 修	④
	"	早坂 右己	⑤		酒田 J・Y・C	高橋 弘	⑤
	鼠ヶ関 J・Y・C	佐藤 健	⑥		酒田 J・Y・C	小松 広幸	⑥
OPツーマン	松島 J・Y・C	工藤 正行	①				
	"	藤沢 正祐	②				
	鼠ヶ関 J・Y・C	渡内 倫道	③				

第5回大会 (岩手県宮古市)

昭和61年8月1日～3日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
OPワンマン	松島 J・Y・C	谷本 洋介	①	OPツーマン	松島 J・Y・C	尾形 祐子	④
	"	早坂 右己	②		酒田 J・Y・C	尾形 祐子	⑤
	"	河本 愛	③		酒田 J・Y・C	尾形 祐子	⑥
	浅虫 J・Y・C	根井 清樹	④		松島 J・Y・C	谷本 香菜子	①
	松島 J・Y・C	工藤 正行	⑤		宮古 Y・C	沼崎 敦司	②
	浅虫 J・Y・C	橋本 憲明	⑥		青森 Y・S・A	高坂 大	③
OPツーマン	松島 J・Y・C	相沢 未央	①	松島 J・Y・C	伊藤 晶文	④	
	"	藤野 香相	②	"	山浦 由靖	⑤	
	浅虫 J・Y・C	五島 透	③	加茂 J・Y・C	田沢 知明	⑥	

第6回大会 (宮城県仙台市)

昭和62年8月14日～16日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
OPワンマン	松島 J・Y・C	谷本 洋介	①	OPツーマン	松島 J・Y・C	赤間 洋子	④
	"	河本 愛	②		"	赤間 洋子	⑤
	酒田六中 Y部	遠田 憲文	③		浅虫 J・Y・C	相澤 未央	⑥
	松島 J・Y・C	尾形 依子	④		酒田六中 Y部	住石 俊悦	①
	"	相沢 未央	⑤		"	森 秀信	②
	"	早坂 右己	⑥		加茂 Y・C	田中 秀幸	③
OPツーマン	浅虫 J・Y・C	中村 篤弘	①	酒田六中 Y部	佐藤 浩二	④	
	松島 J・Y・C	金木 まどか	②	松島 J・Y・C	谷本 香菜子	⑤	
	浅虫 J・Y・C	葛西 龍健	③	念珠関中 Y部	佐藤 彰宏	⑥	

第7回大会 (青森県浅虫ヨットハーバー)

昭和63年8月19日~21日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
OPワンマン	松島J・Y・C	渡 辺 仁	①	OPツーマン	浅虫J・Y・C	蛸 名 史 哉 貝 森 令	⑤
	"	香 野 哲 大	②		"	葛 西 耕 貝 森 有	⑥
	酒田六中Y部	境 田 憲 文	③	ミニホッパリー級	酒田六中Y部	住 石 俊 悦	①
	松島J・Y・C	相 沢 未 央	④		"	今 井 克 広	②
	酒 田 六 中	佐 藤 利 花	⑤		"	小 田 恵 子	③
	松島J・Y・C	門 伝 孝	⑥	ミニホッパリーII級	酒田六中Y部	森 秀 信	①
酒田J・Y・C	斎 藤 洋 剛 藤 剛	①	念珠関中Y部		佐 藤 彰 宏	②	
OPツーマン	松島J・Y・C	藤 井 子 人 斎 村 金 矢 金 相 沢 勇 祐 英	②	トップバー級	浅虫J・Y・C	桜 庭 めぐみ	③
	"	相 沢 渡 介 子 巧 佐 渡 英 介	③		江差J・Y・S	高 清 水 裕 子	①
	浅虫J・Y・C	葛 西 龍 健 角 田	④	函館J・Y・S	今 野 垂 矢	②	

第8回大会 (秋田県八郎湖)

平成1年8月 2日~ 4日

	クラブ名	選手名	順位		クラブ名	選手名	順位
OPワンマン	松島J・Y・C	香 野 哲 大	①	OPツーマン	浅虫J・Y・C	葛 西 耕 恵 五 日 市	④
	"	門 伝 孝	②		松島J・Y・C	佐 藤 英 子 千 田 季	⑤
	"	渡 辺 仁	③		"	西 条 昌 紀 渡 辺 巧	⑥
	酒田六中Y部	阿 部 隆	④	ミニホッパリーI	西田六中Y部	鈴 木 弘 幸	①
	松島J・Y・C	今 野 洋 志	⑤		念珠関中Y部	五 十 嵐 美 香	②
	浅虫J・Y・C	葛 西 龍	⑥		松島J・Y・C	河 本 愛	③
OPツーマン	松島J・Y・C	相 沢 祐 介 木 村 洋 介	①	ミニホッパリーII	酒田六中Y部	今 井 克 広	①
	酒田J・Y・C	斎 藤 剛 力 斎 藤 剛	②		念珠関中Y部	佐 藤 健	②
	浅虫J・Y・C	大 矢 一 仁 松 岡 耕 平	③		松島J・Y・C	相 沢 未 央	③

松島ジュニアヨットクラブ名簿
(1980～1990)

スタッフ

役 職	氏 名	郵便番号	住 所	電 話	勤 務 先
マ ス タ ー	吉田 茂	983	宮城野区蒲生字原屋敷30	258-3064	仙台ビジネススクール
サブマスター	香野 俊一	982	太白区緑ヶ丘4-15-15	248-7151	鶴岡高専
”	鈴木 彰	985	塩釜市貞山通3-7-17	364-3108	自営
マネージャー	金矢 泰弘	981-31	泉区上谷刈字丸山3-149	373-7393	宮城シナネン販売
サブ・マネ	木村 敬一	985	塩釜市玉川3-3-20	363-1662	東北電気工事
コ ー チ	赤間 宣夫	985	七ヶ浜町汐見台4-2-42	357-5421	アオバ産業
”	相沢 孝司	983	若林区大和町1-17-3	284-6379	住重機器販売
”	庄司 一夫	981-31	泉区向陽台3-6-21	372-6719	東北電力
”	砂金 紀	987	小牛田町北浦字待江38-1	33-1417	仙台育英
”	河本 泰	985	七ヶ浜町汐見台1-3-9	357-5224	東北学院大 学生
総務部長	橋内 潔根	983	若林区西新町2-3	257-0632	エッソ石油
アドバイザー	畑中 良	981	泉区南光台3-7-19	233-0471	東北高校
”	菅原 久人	983	泉区実沢山南31-5	278-1141	双葉総合開発

ジュニアメンバー

(*印は現メンバー)

氏 名	入部	郵便番号	住 所	電 話	生年月日
目黒 賢一	55	983	青葉区鉄砲町148	022-291-5634	42. 9. 12
鈴木はりこ	55	985	塩釜市佐海町14-8	02236-2-4526	43. 3. 11
岸本健太郎	55	985	多賀城市伝上山1-11-12	0223-62-7919	43. 8. 6
岸本 奈美	55	985	同上	同上	43. 8. 6
香野 泉	55	982	太白区緑ヶ丘4-15-15	022-248-7151	44. 3. 28
早坂 亜紀	56	980	青葉区荒巻字雷神堂山2-76	022-272-0465	45. 1. 13

氏名	入部	郵便番号	住所	電話	生年月日
佐藤 久展	55	989-24	岩沼市本町4-6	0223-22-2567	45.12.24
河本 浩	56	985	七ヶ浜町汐見台1-3-9	022-357-5224	45.10.15
河本 泰	56	985	同上	同上	45.10.15
奥田 大介	56	985	塩釜市松陽台2-12-1	022-366-3010	45.12.23
大元 猛	56	985		022-365-8703	46.3.9
見目 充紀	57	985	塩釜市新富町2-18	022-365-2561	45.7.23
千葉 周	55	985-01	塩釜市浦戸桂島字庵寺41	022-369-2153	46.6.10
藤原 志津	55			0196-54-0179	46.8.11
松田 涉	55	572	大阪府寝屋川市三井南町30-5-710	0720-32-0093	46.8.16
伊勢 瑞生	55	981-31	泉区寺岡6-11-29	022-378-3465	46.11.10
香野 芳里	55	982	太白区緑ヶ丘4-15-15	022-248-7151	46.8.26
末長 量太	55	985	塩釜市新富町2-19	022-362-2627	47.3.10
谷本香菜子	56	980	青葉区荒巻山中26-36	022-279-3241	46.5.11
山浦 由靖	56	985	塩釜市清水沢2-9-21	022-366-1493	46.5.31
小畑 亜紀	56	985	多賀城市桜木3-3-50	022-364-2238	46.10.28
伊藤 晶文	56	981-31		022-373-0083	46.12.15
門伝 仁志	56	989-24	岩沼市桜3-10-1	0223-22-3540	47.3.11
鈴木 珠美	57	989-23	亶理町長瀬字長峯1-79	0223-34-2058	46.11.13
松田 志帆	55	572	大阪府寝屋川市三井南町30-5-710	0720-32-0093	47.9.9
八嶋 貴弘	55	985	塩釜市泉沢64-5	022-365-7637	47.9.27
内海 正人	55	985-01	塩釜市浦戸桂島字庵寺4	022-369-2033	47.12.22
佐藤 和彦	56	989-24	岩沼市藤浪1-9-29	0223-24-5222	47.8.3
早坂 右己	56	980	青葉区荒巻字雷神堂山2-76	022-272-0465	47.10.22
谷本 洋介	56	980	青葉区荒巻山中26-36	022-279-3241	48.1.20
吉原 誠	56	982		022-244-3731	48.2.8
奏 俊介	57	981-31	泉区高森4-2-444	022-378-0069	47.12.22
千葉 卓	55	985-01	塩釜市浦戸桂島字庵寺41	022-369-2153	49.1.6
河本 愛	56	985	七ヶ浜町汐見台1-3-9	022-357-5224	48.9.28
工藤 正行	57	980	青葉区八番町107-36-1106	022-295-1376	48.8.21

氏名	入部	郵便番号	住所	電話	生年月日
尾形 依子	57	985	塩釜市新浜 1-16-20	022-366-2030	48. 8. 31
渡辺健太郎	57	989-53	栗駒町岩ヶ崎茂庭町75	02284-6-2011	49. 1. 16
小金沢 司	58	983	泉区南光台 5-8-31	022-273-0792	
鈴木 昌美	58	989-23	亶理町長瀬字長峯 1-79	0223-34-2058	
丸山 奥代					49. 3. 31
相沢 未央*	58	983	若林区大和町 1-17-3	022-284-6379	50. 5. 30
門伝 孝*	58	989-24	岩沼市桜 3-10-1	0223-22-3540	50. 6. 20
渡辺 仁*	58	985	多賀城市留ヶ谷 1-6-18	022-368-0856	50. 12. 3
今野 洋志*	59	985	塩釜市牛生町12-28	022-363-0743	50. 7. 17
尾形 祐子	59	985	塩釜市新浜 1-16-20	022-366-2030	51. 2. 8
香野 哲大*	59	982	太白区緑ヶ丘 4-15-15	022-248-7151	50. 5. 13
内海 倫欣	59	985-01	塩釜市浦戸桂島字庵寺 4	022-369-2033	
赤間 洋子*	61	985	七ヶ浜町汐見台 4-2-42	022-357-5421	50. 10. 7
金矢まどか	60	982	青葉区河原町 2-2-3		51. 8. 26
村井 藤子*	60	981	青葉区西勝山 3-7	022-279-0806	52. 3. 25
太田 将智	61	983	青葉区北根黒松12-23	022-233-4123	
相沢 祐介*	60	983	若林区大和町 1-17-3	022-284-6379	52. 6. 23
目々沢もとみ	60	985	多賀城市浮島字西沢 3-7	022-368-0414	
佐藤 英子*	60	989-24	岩沼市藤浪 1-9-29	0223-24-5222	53. 9. 5
千田 亜紀*	63	985	多賀城市下馬 3-36-21	022-365-3227	53. 12. 18
佐々木隆徳*	2	980	青葉区堤通雨宮町12-16-108	022-234-3202	53. 6. 9
中名生恵司*	63	982-02	青葉区折立 4-14-1-212	022-226-1549	
鈴木 邦近*	1	985	七ヶ浜町松ヶ浜字北遠山10-384	022-365-6010	54. 8. 4
西條 昌紀*	1	981-31	泉区加茂 4-13-5	022-378-2564	54. 4. 3
星 智恵子*	1	985	七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷25	022-357-2232	54. 5. 17
木村 洋介*	1	985	塩釜市玉川 3-3-20	022-363-1662	
橋内 潤*	1	983	若林区西新町 2-3	022-257-0632	55. 12. 24
金矢 勇人*	2	981-31	泉区上谷刈字丸山 3-149	022-373-7393	56. 6. 10
渡辺 巧*	2	985	多賀城市留ヶ谷 1-6-18	022-368-0856	56. 9. 22

氏名	入部	郵便番号	住所	電話	生年月日
星 直人*	2	985	七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷25	022-357-2232	56.12.11
渡辺 隼人*	1	985	塩釜市清水沢2-23-3-503	022-364-8437	59.1.8
橋内 葉子*	2	983	若林区西新町2-3	022-257-0632	55.12.24

シニアメンバー

(※印は現メンバー)

氏名	入部	郵便番号	住所	電話	生年月日
岸本健太郎	59		既出		43.8.6
岸本 奈美	59		既出		43.8.6
香野 泉	59		既出		44.3.28
鈴木 康寛	60				
岡田 明子	60	980	青葉区角五郎2-15-1-103	022-263-5718	43.11.2
蔵田 玲子	61	982	太白区緑ヶ丘4-19-7	022-247-9429	44.7.21
河本 浩	61		既出		45.10.15
河本 泰	61		既出		45.10.15
谷本香菜子	62		既出		46.5.11
藤倉 憲子	62	981-31	泉区高玉長2-14	022-372-3241	46.8.26
佐藤 和彦*	63		既出		47.8.3
佐藤 昌祐*	2	989-23	巨理町逢隈高屋字北原11	0223-35-2432	47.12.24
尾形 依子*	1		既出		48.8.31
河本 愛*	1		既出		48.9.28
佐々木 円*	1	980	青葉区堤通雨宮町12-16-108	022-234-3202	48.6.2

旧総務部長（サブ・マネージャー）

初代	伊勢 莊太郎（故人）	伊勢 瑞生父兄
2代	河本 泰二	河本 浩父兄
3代	谷本 昌春	谷本香奈子父兄
4代	渡辺 哲雄	渡辺 仁父兄

旧インストラクター

氏名	旧姓	郵便番号	住所	電話
稲川 修也		990	山形市松波4-3-20 松波パークハイツ202	0236-42-5512
山内 尚		125	葛飾区白鳥4-22-10 エステルハイツ20-B	03-604-8510
佐藤 三和子	木村	981-35	黒川郡大郷町川内字川淵11	022359-2808
渡辺 千賀子	三浦	985	塩釜市みのが丘9-13	022-364-3829
鈴木 京子	高野	983	宮城野区出花1-8-11 B-202	022-258-7805
中林 邦子	若代		マレーシア在住	
和泉 りか	土井	986-03	桃生郡桃生町倉字要害87	0225-76-1086
寺島 みどり	鈴木	982	仙台市若林区飯田字上屋敷39	022-289-2257
宇野 智恵子	渥美	981-02	松島町磯崎字長田80-15	022354-3486



〈いざ出発！ めざすははるか網地島へ……〉

平成2年8月11～13日 10周年記念仙台湾小型ヨット横断

編 集 後 記

はじめに、この記念誌を発行するにあたりまして、お忙しい中お祝いの原稿を寄せて下さいました日本OP協会の馬嶋前会長、宮城県ヨット連盟の高橋理事長、浅虫JYCの笹森先生、ならびに多大な援助を下さいました御協賛者各位及び、関係する皆様方に心から御礼申し上げます。

さて、このすばらしい(?)記念誌の発行大作戦では、集められたたくさんの資料(アルバム)を開いては、なつかしさに想いを巡らせ、あるいは好奇心につい話しがはずんでしまい、作業は一向に進まず、原稿の提出期限を引き延ばす事2週間半(印刷屋さんごめんなさい)。何とも楽しい(???)仕事ではありました。

残念な事に紙面の都合でその全部はお見せ出来ませんが、10歳になったMJYCの成長の記録はいかがでしたでしょうか。これからもすばらしいクラブであり続ける事を編集委員一同心から願うものであります。

香 野 俊 一	佐 藤 啓 子
金 矢 泰 弘	香 野 紀 久 子
渡 辺 哲 雄	橘 内 寛 子
橘 内 潔 根	

協 賛 者 名 簿

<p style="text-align: center;">岸 本 洋 二</p> <p>多賀城市伝上山1-11-24</p>	<p style="text-align: center;">木 村 造 機 所</p> <p>七ヶ浜町松ヶ浜字北遠山12-63</p>	<p style="text-align: center;">今野モータース</p> <p>塩釜市牛生町12-28</p>
<p style="text-align: center;">(株) ベルウッド電気</p> <p>塩釜市旭町19-3</p>	<p style="text-align: center;">マ リ ー ナ 仙 台</p> <p>七ヶ浜町松ヶ浜字北遠山39-2</p>	<p style="text-align: center;">(株) 旭化学工業</p> <p>仙台市宮城野区鉄砲町29</p>
<p style="text-align: center;">赤 間 明</p> <p>桃生郡矢本町字寿町2</p>	<p style="text-align: center;">赤 間 耕 二</p> <p>桃生郡矢本町字寿町2</p>	<p style="text-align: center;">猪 股 昭 二</p> <p>仙台市青葉区小松島 3-9-23</p>
<p style="text-align: center;">宇部興産仙台支店</p> <p>仙台市青葉区中央 4丁目6-1-16F</p>	<p style="text-align: center;">(株) 小野田仙台支店</p> <p>仙台市青葉区一番町 4-6-1</p>	<p style="text-align: center;">小 畑 亜 紀</p> <p>多賀城市桜木3-3-50</p>
<p>●寝装品 ●贈答品 ●インテリア ●生花</p> <p style="text-align: center;">く や 九 矢 商 会</p> <p>七ヶ浜町汐見台4丁目1-3 ☎357-5681</p> <p>※お電話頂ければ送迎致します。</p>	<p style="text-align: center;">工 藤 行 夫</p> <p>仙台市宮城野区榴岡4丁目 1-8-1106</p>	<p style="text-align: center;">久 保 秀 孝</p> <p>多賀城市浮島2-28-41</p>
<p style="text-align: center;">西 條 昌 紀</p> <p>仙台市泉区加茂4-13-5</p>	<p style="text-align: center;">佐々木 与志夫</p> <p>仙台市青葉区堤通雨宮町 12-16-108</p>	<p style="text-align: center;">鈴 木 康 寛</p> <p>岩沼市藤浪1-4-35</p>
<p style="text-align: center;">(株) セントラル資材</p> <p>仙台市青葉区一番町 2-3-32-710</p>	<p style="text-align: center;">(株) 大洋漁業東北支社</p> <p>仙台市青葉区中央二丁目 8-16</p>	<p style="text-align: center;">竹 山 光 二</p> <p>仙台市宮城野区苦竹 2-2-33</p>
<p style="text-align: center;">中名生 充</p> <p>仙台市青葉区折立 4-14-1-212</p>	<p style="text-align: center;">永 吉 孝 康</p> <p>仙台市泉区南光台東 3-12-7</p>	<p style="text-align: center;">(株) 日本重化学工業</p> <p>仙台市青葉区大町二丁目 立町ビル13-12</p>
<p style="text-align: center;">畑 中 良</p> <p>仙台市泉区南光台 3-7-19</p>	<p style="text-align: center;">東日本特殊 止水工業(株)</p> <p>岩沼市藤浪1-9-29</p>	<p style="text-align: center;">(有) 平蔵屋石油店</p> <p>七ヶ浜町湊浜字砂山25-1</p>

<p>星 博</p> <p>七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷 25</p>	<p>松澤蒲鉾店</p> <p>仙台市青葉区中央2-1-23</p>	<p>目々沢 修 一</p> <p>多賀城市浮島字西沢 3-7</p>
<p>株モビーディック</p> <p>石巻市八幡町 1-1-6</p>	<p>湯ノ目家具店</p> <p>仙台市青葉区本町 2-7-3</p>	<p>芳野 勝 男</p> <p>石巻市門脇町 5-9-11</p>
<p>渡辺建築設計事務所</p> <p>岩沼市二木 1-10-49</p>	<p>(有)渡辺造園土木</p> <p>岩沼市南長谷道南</p>	<p>渡 辺 哲 雄</p> <p>多賀城市留ヶ谷 1-6-18</p>
<p>UCC フーデ</p> <p>東北上島 珈琲株式会社</p> <p>名取市植松字入生 265</p>	<p>トニーワン 264-4885</p> <p>パプカナディ アングラブ 262-3971</p> <p>鈴 屋 265-9544</p>	<p>マイタウン不動産の ゴセキ物産株式会社</p> <p>TEL: (022)354-3488(代)</p> <p>FAX: (022)354-3498</p> <p>〒981-02 宮城県松島町高城字町東二、16-1</p>
<p>株式会社 国 井 印 刷</p> <p>岩沼市藤浪一丁目 4 の 35 TEL 0223-22-2221</p>		



海はまた、人を輝かせる!

海との出会いのたびに、人は心も体も大きくなります。

やさしく、おおらかで、きびしく、たくましい、
 そんなでっかい海で挑戦する少年少女たち。
 より大きく、より素敵に、輝く未来を……………

日立も力いっぱい応援します。

Interface

インターフェイスは、「人と技術の理想をめざす」日立のローガンです。

SPRINTER CARIB 誕生

遊能4WD



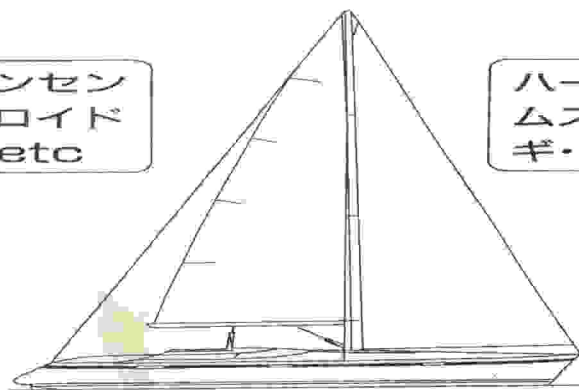
トヨタオート仙台 株式会社

TOYOTA
AUTO

外洋クルーザーからディンギーパーツ
まで、ヨットイングのすべてを
お届けします。

ヘリーハンセン
ヘンリーロイド
オメガ etc

ハーケンウエア
ムストー
ギ・ゴッテン



クルーザー輸入艇全艇種

(株) セイル ヨット

七ヶ浜町花刈浜館下75-53
TEL 022-357-5653

夢と想像を超える新しい世界、

NEW WORLD

NAKAYAMA

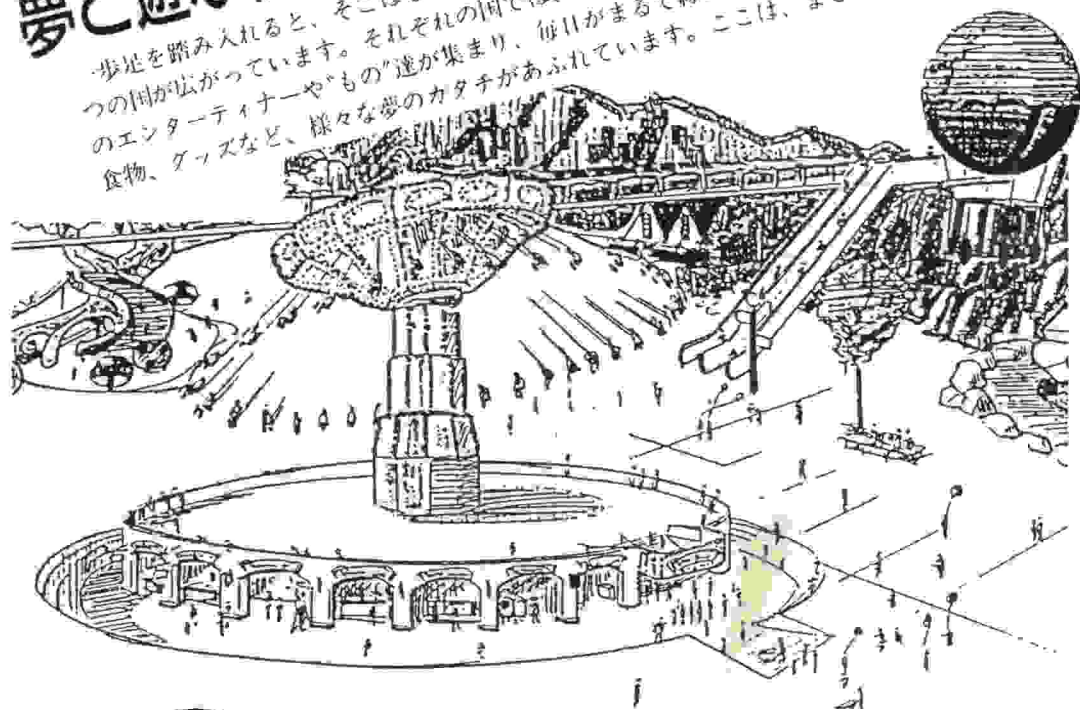
天道白衣大観音・ゴルフクラブ(27H)・テニス・乗馬・ニューワールドホテル・複合飲食施設(来夏完成予定)
(高さ100m) (地上13階 客室203室)

1543年・種子島に火縄銃上陸……1853年・浦賀にペリー上陸……

1992年仙台にインドア・テーマパーク上陸

夢と遊ぶ快適空間。

歩足を踏み入ると、そこはもう別世界。たくさんの音と光につつまれた、広場と、4つの国が広がっています。それぞれの国では、個性豊かなキャラクターを中心に、世界中のエンターティナーや「もの」達が集まり、毎日がまるで休日のようなにぎやかさ。遊び、食物、ダンスなど、様々な夢のカタチがあふれています。ここは、まさに「夢の世界」。



豊かな未来を創造する

双葉綜合開発株式会社

仙台市泉区実沢字中山南31番5号 〒981-32 ☎(022)278-1141